

# 腦及腦膜結核症ノ病理解剖學的 並ニ組織學的研究

## 其 1. 他臟器結核症ノ狀並ニ體質的關係

金澤醫科大學病理學教室(主任中村教授)

研究科學生 今 井 利 溫

*Toshiatsu Imai*

(昭和14年9月1日受附)

### 内 容 抄 録

腦及腦膜結核症ヲ有スル41例ニ就キテ病理解剖學的並ニ組織學的檢索ニヨル他臟器ノ狀並ニ體質的關係ヲ檢索セシニ、其ノ發生頻度ハ陳舊性ナラザル結核症例ニ對シテ小兒44.4%、成人6.9%ニアリ、年齡的ニハ1—5歲最モ多ク、性的素因ニ於テハ差無キガ如シ。腦以外ノ諸臟器ノ狀ニ關シテハ、全身粟粒結核症ヲ伴ヘルモノ著シク多シ。肺臟、肋膜、腹膜ノ結核性變化ハ増殖型ノモノ多ク、氣管及氣管支淋巴腺ニハ變化ヲ

伴ヘルモノ多キモ、腸間膜淋巴腺ニテハ他ノ結核症例トノ間ニ著シキ差異ナシ。生殖器結核症トハ伴ハル、事多シ。

腦及腦膜結核症ヲ有スルモノノ腦重量ハ小兒ニ於テハ極メテ重ク、甲狀腺、腎臟、副腎ノ重量少ク、小兒例ニハ蟲様突起ノ長キヲ認メタリ。又變性體質徵候ハ非結核症例ニ比シテハ多ク、肺結核症ヲ主トスルモノニ比シテハ多少其要素少キ如シ。

### 目 次

第1章 緒 言	其4 脾 臟
第2章 研究材料並ニ研究方法	其5 腎 臟
第3章 研究成績並ニ考按	其6 大 動 脈
第1項 一般の觀察	其7 蟲様突起
其1 全結核症ニ對スル發生頻度並ニ年齡關係	其8 甲 狀 腺
其2 性 關 係	其9 副 腎
第2項 腦及腦膜結核症ト他臟器結核症	其10 睪 丸
其1 全身粟粒結核症	其11 總 括
其2 肺 臟	第4項 變性體質
其3 淋 巴 腺	其1 第X(IX)肋骨遊離
其4 生 殖 器	其2 肋骨及ビ劍狀突起異常
其5 其 他	其3 發毛異常
其6 總 括	其4 假性腱索
第3項 臟器重量其他	其5 小腎殘存分明
其1 腦	其6 總 括
其2 肝 臟	第4章 結 論
其3 心 臟	文 獻

## 第1章 緒 言

古來疾病ト體質トノ關係ハ種々論議セラレタリ。殊ニ結核症ニアリテ細菌其他ノ外因の要約ノミテハ説明シ得ザルモノアルヲ認メラレ、内因的の要約殊ニ體質トノ關係ハ甚シク重要視セララル、ニ到レリ。而シテ體質ニツキテハ諸學者ニヨリ種々ニ分類セラレ、或ハ強健質、癆瘵質、卒中質トニ分チ、或ハ呼吸器型、消化器型、筋肉型、腦型等ニ分タル。又異常體質トシテハ胸腺淋巴體質、發育(成形)不全體質、「アルトリチスミス」、滲出性素質、神經病性體質、無力(虛弱)體質等ヲ分テリ。腦膜結核症ト體質トノ關係ニツキテ Westenhöfer<sup>(70)</sup>ハ淋巴體質ヲ腦脊髄膜炎ヲ起シ易キ要約ト認メ、Stefko<sup>(61)</sup>ハ發育不全體質者ハ腦底腦膜炎ヲ起シ易キモノトナシ、Klare<sup>(63)</sup>ハ腦膜炎罹患兒ハ總テ明カナ

ル淋巴體質者ナリシ事ヲ述ベタリ。然レドモ諸學者ヨリ承認セラレタリトハ謂フベカラズ。中村<sup>(47)</sup>ハ淋巴體質或ハ胸腺淋巴體質及ビ發育不全體質等ノ體質者ハ結核症ニ對シテハ、比較的の抵抗力大ニシテ、殊ニ普通ノ體質者ニ於テ優サル、事多キ肺結核症ニハ比較的の素因少ク、普通ノ場合ト異レル位置ニ發スル事多シ、即チ淋巴腺、腸、泌尿生殖器、副腎、骨、腦等ニ來ルコト多ク、肺ニ來ルトシテモ其ノ分布位置ヲ異ニシ、又纖維性トナリ、硬化セントスル傾向多シト言ヘリ。依テ余ハ腦及腦膜結核症ニ於ケル他臟器結核症ノ狀及ビ各臟器重量、大動脈幅徑、蟲樣突起ノ長サ、其他體質の關係ヲ檢索セリ。茲ニ之ヲ記載シ、以テ先進諸賢ノ教示ヲ仰ガントス。

## 第2章 研究材料並ニ研究方法

本研究ニ使用セル材料ハ我が病理學教室ニ於テ大正10年1月ヨリ昭和12年12月ニ至ル間ニ解剖セラレタルモノニシテ記錄上ニ腦及腦膜結核症ト診斷セラレタル41例ナリ。年齢ハ生後7ヶ月ヨリ60歳ニ至ルモノニシテ、數ヘ年14歳迄ヲ小兒、以後ヲ成人トナシ、主トシテ剖檢記錄ニ從ヒ、必要ニ應ジテハ顯微鏡的ニ檢索セリ。是ヲ表記スレバ第1表ノ如シ。但シ檢査番號4以後ハ數ヘ年ヲ記載セリ。尙肺及ビ淋巴腺ノ病變ヲ檢スルニ當リ、小兒ニ於テハ腦及腦膜結核症例ヲトリタルト同一期間ニ、成人ニ於テハ昭和12年12月ヨリ遡リテ

昭和9年半ニ至ル間ニ解剖ニ附セラレタル者ニシテ腦及腦膜結核症ニアラザル結核性疾患ヲ死ノ主要ナル原因ノトセル症例ヲトリタリ(小兒15例、成人66例)。

各臟器重量、大動脈幅徑、蟲樣突起ノ長サ、成形異常等ノ比較ハ夫々我國及ビ我教室ニ於ケル研究者ノ結果ニツキテ觀タリ。又小兒ニ於ケル結核症ト成人ニ於ケル其トハ、其發生ノ頻度、體質の關係、病變ノ種類、及ビ經過等ニ關シテ相異ルベケレバ兩者ヲ分チテ檢セリ。

第 1 表

小 兒						
檢査番號	剖檢番號	年齢	性	臨床診斷	主ナル病理解剖上診斷	
					腦及腦膜	他臟器
1	1334	7月	♀	腦膜炎	漿液纖維素性腦底腦膜炎	乾酪性氣管支淋巴腺炎、肺、脾、腎、肝、腹膜漿粒結核症、腸潰瘍。
2	1887	15月	♂	腦膜炎及ビ腦炎	腦膜結核症	肋膜炎ニ腹膜結核症、乾酪性右氣管支淋巴腺炎、右中葉原發性結核症、肺、脾、肝、膵、甲狀腺漿粒結核症、腸淋巴濾胞性結核症、腸間膜淋巴腺結核症、右上葉加答兒性氣管支肺炎。
3	1606	1年11月	♂	腦膜炎	腦膜腦結核症	細葉性肺結核症、氣管支肺炎、腎、脾、肝漿粒結核症、腸潰瘍、腸間膜淋巴腺肥大、乾酪性氣管支ニ氣管支淋巴腺炎、左側肋膜炎着。

4	1555	4歲	♂	粟粒結核症	腦膜粟粒結核症	兩側細葉性乾酪性肺炎，左肺輕度空洞形成，氣管支，前縱隔竇並=腸間膜淋巴腺結核症(乾酪竇)，竇心外膜下粟粒結核症，脾，肝，腎粟粒結核症，右部分性肋膜粟粒結核症，輕度腸結核症。
5	1902	5	♂	肺並=腹膜結核症	軟腦膜結核症	左肺下葉並=左氣管支淋巴腺限局性結核症，右肺限局性並=粟粒結核症，右氣管支並=氣管分岐部乾酪性淋巴腺炎，右結核性癒着性肋膜炎，腸淋巴濾胞性結核症，脾，肝，扁桃腺，腸間膜淋巴腺粟粒結核症。
6	1273	6	♂	腦膜結核症	腦底腦膜結核症	乾酪性氣管支淋巴腺炎，肺，腹膜，腎，脾，肝，扁桃腺粟粒結核症，結核性腸潰瘍，膀胱炎，前縱隔竇並=腸間膜淋巴腺結核症。
7	1239	8	♂		腦膜結核症	全身粟粒結核症，大綱，腸間膜並=左氣管支淋巴腺結核症(乾酪竇)。
8	2346	8	♂	腦腫瘍	小腦結核症	內腦水腫，右肺原發性結核症，氣管支淋巴腺結核症(乾酪竇)，左腎結核症，腸淋巴濾胞性結核症，胃粘膜出血，右結石性腎盂炎，心臟變性，肝鬱血。
9	1804	13	♂	鼻性腦膜炎	腦膜結核症	篩骨小窩手術後，氣管支並=氣管分岐部淋巴腺結核症(乾酪竇)，左肺原發性結核症，肺，脾，腹膜粟粒結核症，腎變性，肉荳蔻肝，加答兒性肺炎。
10	1720	13	♂	肋腹膜炎	腦膜結核症	腹膜，肋膜並=右心結核症，腸間膜淋巴腺結核症，兩側肋膜纖維性癒着，肺，甲狀腺，扁桃腺，脾，肝，腎，腺粟粒結核症，肺限局性結核症，結核性腸潰瘍，氣管支淋巴腺結核症(乾酪竇)。
11	2032	14	♂	粟粒性肺結核症	腦膜結核症	兩側肋膜纖維性癒着，左細葉性並=小葉性乾酪性肺炎，右細葉性乾酪性肺炎，心外膜斑狀出血，陳舊性氣管支淋巴腺結核症，脾，肝，左腎結核症，右側腎癆，潰瘍性膀胱結核症，腸淋巴濾胞性結核性潰瘍，氣管支並=腸間膜淋巴腺結核症(乾酪竇)，陳舊性腹膜結核症。
12	2347	14	♂	癩癩症 精神發育制止	腦膜結核症	左肺並=氣管支淋巴腺陳舊性結核症，兩側肋膜纖維性癒着，氣管支肺炎，腦膜色素沉着，結核性腸潰瘍，腸間膜淋巴腺結核症，肉荳蔻肝，腎變性，上肢水腫，褥瘡。
成 人						
13	1815	17	♂	右側滲出性肋膜炎	腦膜結核症	兩側增殖性肋膜結核症，右包裹性漿液性肋膜炎，增殖性腹膜結核症，輕度肺滲出性結核症，肺，脾，腎粟粒結核症，腸結核性潰瘍，乾酪性氣管支並=腸間膜淋巴腺結核症，乾酪性前縱隔竇並=肝門淋巴腺結核症。
14	1949	17	♀	腦底腦膜炎	腦膜結核症	左氣管支淋巴腺結核症(乾酪竇)，腸間膜淋巴腺結核症，左肺部分性結核症，左肺上葉慢性結核症，右氣管支肺炎，腸結核症，脾慢性結核症，喉頭結核症，成形不全體質。
15	2311	17	♂	全身粟粒結核症並=喉頭結核症	腦膜結核症	肺粟粒結核症，氣管支周圍結核症，左氣管支淋巴腺陳舊性結核症，兩側纖維性肋膜癒着，喉頭結核症，聲帶水腫，咽頭腸結核性潰瘍，乾酪性大綱結核症，癒着性肝臟周圍炎，脾，腎，肝粟粒結核症，右腎結核症，頸部淋巴腺粟粒結核症。
16	1369	18	♀	肺結核症	腦膜粟粒結核症	播種性肺粟粒結核症，氣管支周圍結核症，乾酪性氣管支，腸間膜並=前縱隔竇淋巴腺炎，皮膚紫斑，腹膜並=肋膜結核症，脂肪肝，肝，脾，腎粟粒結核症，結核性腸潰瘍，結核性喉頭潰瘍。
17	2221	18	♂	肺結核，腸結核並心臟衰弱	腦膜結核症	下肢切斷後，兩側結核性癒着性肋膜炎，肺細葉性並=細葉結節性，增殖性並=滲出性結核症，肺空洞形成，氣管支淋巴腺，脾，肝粟粒結核症，右腎，右副腎並=腹膜結核症，腸結核症，脊椎結核症，結核性喉頭潰瘍。
18	2247	18	♂	腹膜炎	部分性腦膜結核症	高度腹膜結核症，兩側肋膜癒着，肺細葉性滲出性並=增殖性結核症，結核性喉頭並=腸潰瘍，攝護腺，腎，氣管支淋巴腺結核症(乾酪竇)，肉荳蔻肝，脾，肝粟粒結核症。
19	1718	19	♀	粟粒結核症	腦膜結核症	結核性並=漿液出血性腹膜炎，漿液出血性肋膜炎，纖維素性結核性心外膜炎，肺，腎，肝粟粒結核症，播種性乾酪性細葉性肺炎，肉荳蔻肝，高度脾結核症，乾酪性氣管支，氣管並=腸間膜淋巴腺結核症，結核性喉頭氣管潰瘍，扁桃腺並=舌結核症，結核性淋巴濾胞性腸潰瘍。

20	2241	19	♀	肺, 腸, 喉頭 結核症	腦膜結核症	左部分性並 = 右全般性纖維性肋膜癒着, 肋膜結核症, 肺細葉性增殖性結核症, 兩側結核性乾酪性氣管支肺炎並 = 氣管支肺炎, 兩側肺小空洞形成, 結核性喉頭氣管潰瘍, 結核性腸潰瘍, 腎實質變性, 氣管支並 = 腸間膜淋巴腺結核症(乾酪竈), 部分性腹膜結核症, 肉莖癭肝, 纖維性肝癒着, 輕度脾粟粒結核症.
21	1890	19	♂	結核性腦膜炎	小腦孤在結核症	癒着性肋膜結核症, 右肺上葉並 = 中葉細葉性結核症, 扁桃腺, 脾粟粒結核症, 增殖性腹膜結核症, 結核性腸潰瘍, 氣管支並 = 腸間膜淋巴腺結核症, 肝粟粒結核症, 一部性肝鬱血.
22	1988	20	♀	肺結核症	腦膜結核症	肺細葉性滲出性並 = 增殖性結核症, 肺空洞, 兩側肋膜纖維性癒着, 結核性喉頭, 腸潰瘍, 腸間膜淋巴腺結核症, 脾, 腎, 肝粟粒結核症, 褥瘡.
23	1694	22	♂	肺結核症	腦底腦膜炎	兩側肋膜纖維性癒着, 兩側肺增殖性細葉性結核症, 氣管支擴張性並 = 肺潰瘍性空洞, 氣管支並 = 腸間膜淋巴腺粟粒結核症, 輕度結核性腸潰瘍, 腎, 肝, 脾鬱血.
24	1967	23	♀	右膝關節結核症	小腦結核症	右膝關節結核症, 兩側肋膜纖維性癒着, 兩側肺上葉慢性乾酪性氣管支肺炎, 兩側細葉性並 = 小葉性慢性乾酪性肺炎, 肺空洞形成, 濾胞性腸結核症, 結核性喉頭潰瘍, 氣管支並 = 腸間膜淋巴腺結核症(乾酪性), 脂肪肝, 褥瘡.
25	2202	24	♂	腦膜炎	腦底腦膜結核症	胸椎結核症, 兩側肋膜纖維性癒着, 肺上葉硬化性結核症, 肺纖維性粟粒結核症, 左側腎癆, 膀胱並 = 輸尿管結核症, 攝護腺, 喉頭, 扁桃腺並 = 舌淋巴濾胞性結核症, 右腎, 脾, 肝, 副腎, 心筋粟粒結核症, 胃癭痕, 氣管支淋巴腺結核症(乾酪竈).
26	1853	25	♂	肺並 = 腦膜結核症	腦膜結核症	左全般性並 = 右一部性纖維性肋膜癒着, 左肺上葉全般空洞形成, 左肺細葉性結核症, 右肺粟粒結核症, 纖維性結核性肝癒着, 腹膜結核症, 脾, 肝粟粒結核症, 結核性輕度腸潰瘍, 腎小部分結核症, 心內膜並 = 左筋層結核症, 精囊結核症.
27	1158	26	♀	肺結核症	腦膜結核症	兩側肋膜一部性纖維性癒着, 兩側氣管支周圍結核症, 空洞形成, 氣管支淋巴腺結核症(乾酪竈), 結核性喉頭氣管潰瘍, 結核性腸潰瘍, 腎實質變性, 痔核.
28	1631	26	♂	腦膜結核症並 = 癒着性肋膜炎	腦並 = 脊髓膜結核症	右癒着性並 = 結核性肋膜炎, 心外膜結核症, 右氣管支並 = 前縱隔竇乾酪性淋巴腺炎, 左氣管支淋巴腺結核症, 輕度兩側肺粟粒結核症, 右側氣管支肺炎並 = 氣管支周圍肺炎, 加答兒性氣管支肺炎, 腹膜結核症, 脾, 肝粟粒結核症.
29	1527	26	♀	慢性心內膜炎 (粟粒結核症?)	軟腦膜並 = 腦實質結核症	左右肺細葉性結核症, 兩側肺, 脾, 腎粟粒結核症, 脾及ビ左腎乾酪竈, 前縱隔竇淋巴腺乾酪竈(崩壞), 右肺門部淋巴腺結核症, 輕度心筋斷裂及ビ褐色色素沈着, 肺鬱血及ビ出血.
30	1857	28	♂	腰椎カリエス 及ビ肺結核症	腦脊髓膜結核症	結核性脊椎炎(第1腰椎), 左陳舊性及ビ右新鮮性膿積性膿瘍, 左肺結核性空洞, 兩側細葉性乾酪性肺炎, 氣管支淋巴腺結核症, 腸間膜淋巴腺結核症(乾酪竈), 結核性腸潰瘍, 扁桃腺, 脾, 肝粟粒結核症, 兩側副腎結核症, 褥瘡.
31	1714	30	♀	結核性腹膜炎 結核性腦膜炎	腦膜結核症	腹膜結核症, 陳舊性氣管支淋巴腺結核症, 肺增殖性細葉性結核症, 高度乾酪性腸間膜淋巴腺炎, 腎結核症, 脾, 肝粟粒結核症, 結核性輸卵管炎並 = 子宮內膜炎, 結核性輕度腸潰瘍.
32	1958	30	♂	肺結核症	腦膜結核症	兩側肋膜纖維性癒着並 = 肥厚, 左肺結核性慢性多發性空洞, 左肺細葉性增殖性結核症, 右肺高度結核性慢性空洞(上葉並 = 中葉), 右肺細葉性增殖性結核症, 結核性喉頭並 = 腸潰瘍, 腸間膜淋巴腺結核症, Sylvius氏窩動脈石灰化.
33	2276	30	♂	肺結核症並 = 左大腿骨骨髓炎	腦膜結核症	兩側肋膜纖維性癒着, 肺細葉性結核症, 左肺下葉, 右肺上葉結核性空洞, 結核性氣管支喉頭炎, 結核性腸潰瘍, 腸間膜淋巴腺結核症, 脾粟粒結核症, 結核性慢性左大腿骨骨髓炎, 氣管支淋巴腺結核症(乾酪竈).
34	1726	32	♂	左側腎臟結核症	腦膜結核症	左腎並 = 左輸尿管結核症, 結核性膀胱潰瘍, 攝護腺結核症, 輕度右腎結核症, 加答兒性氣管支肺炎, 大網並 = 左肺陳舊性結核症, 肺, 脾, 肝, 後腹膜淋巴腺粟粒結核症, 心筋斷裂.

35	1921	32	♂	肺結核症並 = 腸結核症	腦膜結核症	兩側肋膜纖維性癒着, 肺硬化性並 = 空洞性結核症, 肺, 脾, 腎, 肝, 扁桃腺, 脾腺粒結核症, 結核性喉頭, 胃, 並 = 腸潰瘍, 結核性骨髄膜炎, 肥大性並 = 結核性淋巴腺炎, 右心室血栓形成.
36	2049	33	♂	肺結核症並 = 腦膜結核症	腦膜結核症	左肺尖結核性空洞, 輕度肺細葉性結核症, 兩側肋膜結核症, 一部性腹膜結核症, 脾, 肝, 氣管支淋巴腺粒結核症, 腎結核症, 副睪丸結核症, 攝護腺並 = 精囊結核症, 輕度結核性腸潰瘍, 右腎孟小結石.
37	1379	34	♂	腎臟結核症	腦膜結核症	兩側肺上葉空洞形成, 肺細葉性結節性結核症, 結核性喉頭潰瘍, 兩側肋膜癒着, 左腎癆, 輸尿管結核症, 結核性膀胱潰瘍, 攝護腺結核症(癭形成), 睪丸萎縮, 右腎實質變性, 腎結石.
38	2293	38	♂	兩側肺結核症, 喉頭結核症, 腸結核症	腦膜結核症	左一部性並 = 右全般性纖維性肋膜癒着, 肺細葉性並 = 細葉結節性結核症, 肺上葉硬化性結核症, 右肺空洞形成, 結核性喉頭並 = 氣管潰瘍, 結核性高度腸潰瘍, 脾, 肝, 副腎腺粒結核症, 口蓋扁桃腺並 = 舌淋巴細胞結核症, 氣管支並 = 腸間膜淋巴腺結核症(乾酪竈).
39	1200	39	♂	肺結核症	大腦結核症	左肺癆, 左增殖性纖維性肋膜炎, 右纖維性肋膜癒着, 右一部性氣管支周圍結核症, 右肺上葉膠樣性並 = 乾酪性肺炎, 氣管支淋巴腺結核症, 腸間膜淋巴腺結核症(乾酪竈), 結核性喉頭, 氣管並 = 腸潰瘍, 脾, 肝, 腎腺粒結核症, 彈力纖維性假性黃色腫.
40	2064	60	♂	肺結核症	小腦膜粟粒結核症	兩側肋膜纖維性癒着, 肺破壞性並 = 硬化性結核症, 腸結核症, 喉頭並 = 氣管結核症, 喉頭粘膜色素沈着, 氣管支淋巴腺粟粒結核症.
41	1721	45	♂	結核性腦膜腦炎	漿膿性-腦膜腦結核症, 腦橋孤在結核症	頭蓋以外ハ開檢セズ.

### 第 3 章 研究成績並ニ考按

#### 第 1 項 一般的觀察

##### 其 1 全結核症ニ對スル發生頻度

並ニ年齡關係

既ニ記載セシ當該期間内ニ於テ剖檢セラレシ解剖屍, 剖檢番號1125ヨリ2359ニ至ル1235例中結核性病變ノ認メラレタルモノ593例ニシテ, 内陳舊性病竈ノミヲ有スルモノ143例, 陳舊性ナラザル結核症450例(小兒27例, 成人42.3例)ナリ. 而シテ此ノ内腦及腦膜結核症ハ小兒12例(44.4%), 成人29例(6.9%)ニシテ, 第2表ノ如シ.

第 2 表

	腦及腦膜結核症例	全結核症例	百分率
小 兒	12	27	44.4
成 人	29	423	6.9

是ニ關スル諸家ノ報告ヲ見ルニ Steinmeier<sup>(63)</sup>ハ0—15歳ノ小兒結核症例中37.09%ノ腦膜結核症ヲ, 15歳ヨリ60歳ニ至ル成人結核症例中5.63%ノ腦膜結核症ヲ見, Kment<sup>(64)</sup>ハ解剖セルモノ11142例中腦膜結核症ハ成人203例, 小兒

162例ニシテ結核症ヲ主トシ腦膜結核症ヲ有セザルモノニシテ血行性播種ノアルモノ成人828例, 小兒162例, 血行性播種ノナキモノ成人790例, 小兒74例ヲ見タリ. 藤田<sup>(13)</sup>ハ全結核症例826屍中腦膜ニ結核ヲ認メタルモノ97例ニシテ陳舊結核症例ヲモ含メタル全結核症ニ對シ約11.74%ニシテ, 大人ハ6.7%, 小兒ハ36.2%, 即チ小兒ハ大人ノ5倍以上ノ罹患率ヲ示スト言ヒ, 松田<sup>(39)</sup>ハ結核性疾患患兒數296例中45例ヲ認メ其ノ比率15.2%ナリト報告セリ. Engel<sup>(11)</sup>ハ15歳迄ノ小兒ニ於テ結核症ニテ死セル全例ノ約半數ニ腦膜炎ガ存在スト言ヒ, 又 Blacklock and Griffin<sup>(7)</sup>ハ372例ノ小兒結核症中241例(64.8%)ヲ見タリト.

又小兒腦膜結核症例數ヲ年齡別ニ分ケタル諸家ノ報告ヲ見ルニ第3表ノ如シ. 而シテ我邦ニテ上島<sup>(67)</sup>ハ次ノ如キ表ヲ掲ゲタリ. 而シテ又 Kaufmann<sup>(20)</sup>ノ記セル所ニヨレバ192例中67例ガ10歳迄ノ小兒, 36例10—20歳, 41例20—30歳, 22例30—40歳, 14例40—50歳, 9例50—60歳,

第 3 表

	0   1	1   2	2   3	3   4	4   5	5   6	6   7	7   8	8   9	9   10	10   11	11   12	12   13	13   14	計
H. Koch	45	49	32	35	20	13	15	12	9	7	1	4	4		246
Wangenheim	14	30	18	12	9	8	5	4	1	3	2				106
Blacklock and Griffin	60	56	46	44			22		13					241	

第 4 表 上島ニヨル年齢別男女別表

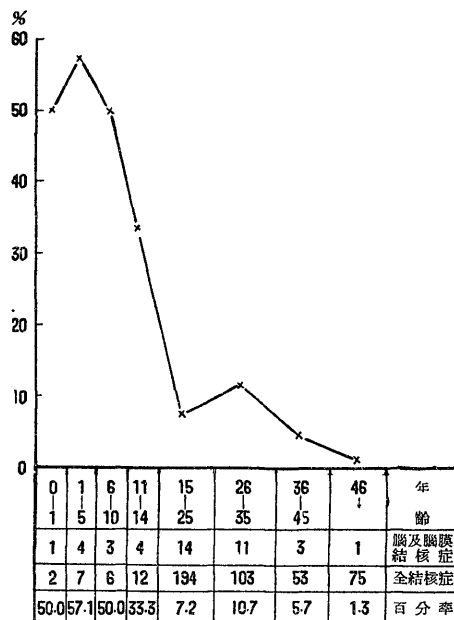
年齢 性	0-5 月	6-11 月	1年	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
男	1	14	34	25	9	11	13	8	3	6	5	4	3	3	0	139
女	2	13	33	18	15	6	10	6	6	4	1	3	4	1	1	123
計	3	27	67	43	24	17	23	14	9	10	6	7	7	4	1	262
	3	161			54			44								

2例60—70歳，1例70—80歳ナリ。

余ノ材料ニ於テハ第1圖ノ如シ。但シ余ノ場合ハ例數少キヲ以テ當該年齢ニ於ケル腦及腦膜結核症ノ頻度ヲ正シク示ストハ言ヒ得ザルベキモ圖ニヨリテ大凡ソノ點ハ察シ得ラルベシ。

以上ノ如ク諸家ノ業績及ビ余ノ例ニ於テ著シキハ成人ニ比シ小兒ニ甚シク腦膜結核症罹患率高キ點ニシテ，殊ニ4—5歳迄ノ小兒ニ多シ。即チ Koch<sup>(35)</sup> ハ14歳迄ノ小兒ノ内68%ガ最初ノ4年間ニ觀ラレ，其後ハ急激ナル減少ヲナシ，11—14歳迄ノ間ニ僅カ3.7%ヲ觀タリ。Wangenheim<sup>(68)</sup> ニヨレバ最初ノ3年間ニ多ク，特ニ第2年ニ多シ。又 Orosz<sup>(54)</sup> ハ小兒腦膜結核症ノ約半ハ6歳迄ノ小兒ニ起ルト言ヒ，Blacklock and Griffin モ此ノ間ニ85.5%ヲ見タリ。余ノ例ニ於テモ第1圖ニ示セル如ク，1—5歳ノ間ニ最高ヲ示シ，15—25歳ニ至ル迄殆ド直線ヲナシテ降下セリ。而シテ Kment<sup>(34)</sup> ハ降下ノ後20歳ト30歳ノ間ガ再ビ強ク増加セル事ヲ言ヒ，Kaufmann ノ記載ニ觀ルモ20—30歳ノ間ニ於テ前後ニ比シ少シク多クナレリ。余ノ場合モ26—35歳ノ間ニ於テ其ノ絶對數ハ減ゼルガ如キモ全結核症例ニ對スル率ノ高マレルハ興味アリ。

第1圖 年齢別ニ觀タル全結核症ニ對スル腦及腦膜結核症ノ頻度



何故ニ如斯成人ニ比シ小兒ガ，又小兒ニ於テハ乳幼兒ノ罹患スル事多キカ。Ruata<sup>(57)</sup> ハ胎兒ノ解剖的關係ヨリ推シ，最初ノ數年間ノ小兒ノ腸，腦及ビ肺結核症ニヨル死亡率ノ差ヲ見テ，

兩側肺臟ハ呼吸ニ際シテ膨脹スルモ尙小ニシテ菌ノ侵入ニ對シテ腸ハ著シキ表面積ヲ有スルニ反シ、肺臟ハ唯小ナル面積ヲ有スルニ過ギズ、腸ニ次デ腦膜ハ大ナル表面積ヲ有シ且極メテ血管ニ富メルガ爲比較的高シトナシ、又 Oppenheim<sup>(53)</sup> ハ小兒ノ腦ニ於テ著シク活潑トナレル生活作用ガ著シク危險ヲ多クスル爲ナリトナセリ。Huebschmann<sup>(55)</sup> ハ成人ノ軟腦膜ハ結核感染ニ對シテ敏感ナラズトナシ、又<sup>(22)</sup>粟粒結核症及ビ腦膜結核症ニツキテ研究ヲナシ、各年齡ニ於ケル此等症例數ノ多寡ハ主トシテ其ノ年齡ニ於ケル結核症ノ蔓延ノ多寡ニ相當ストナシ、是ニ對シテ Engel<sup>(12)</sup> ハ其ノ關係ハ如斯簡單ナルモノニアラズトシテ是ヲ反駁記述シ、幼若兒ノ粟粒結核症或ハ腦膜結核症ニ對スル年齡的素因ハ間接的ニシテ淋巴裝置ノ特殊性ニ基クモノナリトナセリ。

第12表ニ記セル余ノ検査成績ニ明ナル如ク、腦及腦膜結核症例ニ於ケル淋巴腺結核症ノ狀ハ他臟器結核症例ノ其ニ比シテ病變ノ程度甚シキ點、又 Westenhöfer<sup>(70)</sup> ガ淋巴體質ヲ腦脊髓膜炎ヲ起シ易キ要約トナセル點等ヨリ考ヘテ余モ亦 Engel ノ言ヘル如ク淋巴裝置ノ特殊性ノ重要視スベキモノナルヲ考フルモノナリ。然レドモ Huebschmann ノ言ヘル如キ年長兒以後、特ニ成人ニ於ケル腦膜ガ結核感染ニ對シテ敏感ナラザル點モ亦考慮スベキモノト信ズ。

## 其2 性關係

男女ノイヅレガ多ク腦及腦膜結核症ニ罹患スルカノ疑問ニ對シテ諸家各其ノ説ヲ異ニセリ。即チ男性ノ方多シトスルハ Steinmeier<sup>(63)</sup>、加藤<sup>(28)</sup>、松田<sup>(39)</sup>、廣瀬-永谷<sup>(17)</sup>、山下-藤瀬<sup>(71)</sup> 等ニシテ、性的素因ニテ差異ナシトスルモノ Koch<sup>(35)</sup>、窪田-村田<sup>(36)</sup>、Engel<sup>(11)</sup>、Orosz<sup>(54)</sup>、大氣<sup>(52)</sup> 等ナリ。又 Kment<sup>(34)</sup> ハ男性ノ頻度ガ小兒ニ於ケルヨリモ成人ニ於ケル方大ナリトナシ、M' Cracken<sup>(40)</sup> ハ0—4 歳ノ間ハ男性ガ多ク、以後ハ女性ガ多シト言ヒ、Brown<sup>(9)</sup> ハ3 歳迄ハ兩性略同數ナルモ以後ハ男性ガ多クナルト報告セリ。斯ノ如クシテ未ダ是ニ對スル適確ナル解答

ハ與ヘラレザル如キモ、Orosz ハ諸家ノ報告セル數ニ自己例ノ數ヲ加ヘタル結果總計2601例中男子1316例(50.5%)、女子1285例(49.5%)トナリ、其ノ差甚ダ小ナルヲ以テ結核性腦膜炎ニ於ケル性的素因ノ差ハ全クナキ事ヲ結論セリ。余モ氏ニ倣ヒ、氏ノ研究結果及ビ氏ノ引用ニ漏レタル外國ノ學者、我國ニ於ケル研究者ノ統計及ビ余ノ數字ヲモ加ヘタル結果第5表ノ如クナリ、即チ男子2286例、女子2053例ニシテ夫々

第 5 表

著者名	男	女
H. Kment	247	178
"	187	157
加藤	38	23
松田	27	18
廣瀬-永谷	72	42
Blacklock and Griffin (7)	124	117
山下-藤瀬	48	32
窪田-村田	13	12
Orosz	1316	1285
上島 (67)	139	123
Kinnear (31)	44	56
自己例	31	10
計	2286	2053
百分率	52.68%	47.32%

52.68%、47.32%ナリ。兩者ノ差ハ約5%ニシテ Orosz ノ記セル差ノ1%ナルニ比シ少シク大ナリ。然レドモ是ノミニテハ直チニ男子ノ方女子ニ比シテ多シト言フ事ヲ得ズ。當教室ニ於テ剖檢セラレタル屍體ノ數ハ女子ニ比シテ男子ノ方遙ニ大ニシテ、例ヘバ余ノ症例ヲトリタルト同期間ニ陳舊性ナルモノ以外ノ全結核症450例中男性300例、女性150例ニシテ甚シキ相違アリ、余ノ腦及腦膜結核症ハ絶對數ニ於テモ比較數ニ於テモ男性ニ高キ結果ヲ示セルハ事實ナ

リ。又西邨-田中<sup>(49)</sup>ハ本學大里内科教室ニ於テ昭和2年ヨリ昭和12年ニ至ル間ニ得タル肺結核患者數男子1347名、女子694名ニシテ男性ハ女性ノ約2倍ヲ示セリト報告セリ。從ツテ患者數ノ比ハ直チニ腦膜炎罹患率ヲ示スモノトハ言ヒ難ク、是等ノ事情ヲ併セ考フル時上述5%ノ差アリトシテモ、ヒロク觀察セバ性的素因上著シキ差ノ存在セザルモノト思惟スベキモノニアラザルカ。

**第2項 腦及腦膜結核症ト他臟器結核症トノ關係**

Koch<sup>(55)</sup>ハ14年迄ノ小兒ニシテ結核性腦膜炎ヲ有スルモノ246例中初期變化群ノミ存スルモノ111例ニシテ、此ノ初期變化群ノ外ニ肺臟ニ結核性病變ヲ有スルモノ25例、肋膜41例、骨9例、淋巴腺15例、腦50例、皮膚3例、腹腔内臟90例ヲ見タリ。Beres and Meltzer<sup>(6)</sup>ハ100例ノ腦膜結核症例中脾臟ガ76%、肺臟ガ69%、肝臟64%、腎臟50%ニ胃サルトセリ。

余ノ材料ニ於テ腦及腦膜結核症例中腦以外ヲ開檢セザル1例ヲ除キ、完全ニ全身ノ病理解剖ノ行ハレタル小兒12例、成人28例ノ他臟器ニ於ケル結核ノ狀ヲ檢スルニ第6表(小兒)及ビ第7表(成人)ニ示セル如シ。共ニ粟粒結核症ノ部ニ

ハ該臟器ニ粟粒結核ノミヲ有スルモノヲ入レ、粟粒ナラザル結核症或ハ是ト粟粒結核ヲ共ニ有スルモノヲ結核症ノ部ニ入レタリ。而シテ該臟器ニ陳舊性病竈ノミヲ有スルモノノ數ノ中ニ含マシメズ。即チ小兒ニ於テ腹膜及ビ肺臟ニ於テ陳舊性病竈ノミヲ有スルモノ各1例ヅ、アリタリ。

**其1 全身粟粒結核症**

腦及腦膜結核症ガ粟粒結核症ニ伴ハル、事甚ダ多キハ諸家ノ認ムル所ナリ。

Huebschmann<sup>(22)</sup>ハ10歳迄ノ小兒ニ於テ腦及腦膜結核症例ニシテ全身粟粒結核症ヲ有スルモノ109例、腦及腦膜結核症ノミノモノ21例、11歳以上ニ於テハ前者90例、後者79例、即チ小兒成人ヲ通ジテハ前者199例、後者100例ヲ認メタリト、又 Rich and Mc Cordock<sup>(55)</sup>ハ小兒成人ヲ通ジテ腦膜結核症82例中粟粒結核症ノ伴ハル、モノ64例トナシ、Blacklock and Griffin<sup>(7)</sup>ハ13歳以下ノ小兒ニ於テ241例中202例、Mac Gregor and Green<sup>(88)</sup>ハ小兒成人合セテ84例中70例(83.3%)ノ粟粒結核症ヲ認メタリ。

Weigert<sup>(69)</sup>ハ全身粟粒結核症ヲ三ツノ型ニ分チタリ。即チ

1. 急性全身粟粒結核症 殆ド總テノ臟器ニ

第6表 小 兒

病 名 臟 器	結核症(非粟)		粟粒結核症		合 計	
	例數	百分率	例數	百分率	例數	百分率
淋 巴 腺	12	100.0	—	—	12	100.0
腸	10	83.3	—	—	10	83.3
肺 臟	8	66.7	3	25.0	11	91.7
肋 膜	3	25.0	2	16.7	5	41.7
腹 膜	2	16.7	3	25.0	5	41.7
腎 臟	2	16.7	6	50.0	8	66.7
脾 臟	1	8.3	9	75.0	10	83.3
肝 臟	1	8.3	9	75.0	10	83.3

$$\text{百分率} = \frac{\text{小兒該臟器結核症例數}}{\text{腦及腦膜結核症例數(12例)}} \times 100$$



第 7 表 成 人

病 名 臟 器	結核症(非粟)		粟粒結核症		合 計	
	例數	百分率	例數	百分率	例數	百分率
肺 臟	26	92.9	2	7.1	28	100.0
腸	23	82.1	—	—	23	82.1
淋 巴 腺	22	78.6	6	21.4	28	100.0
喉 頭	17	60.7	—	—	17	60.7
腹 膜	12	42.9	—	—	12	42.9
腎 臟	10	35.7	6	21.4	16	57.1
肋 膜	9	32.1	—	—	9	32.1
生 殖 器	7	25.0	—	—	7	25.0
骨 及 關 節	5	17.9	—	—	5	17.9
脾 臟	3	10.7	20	71.4	23	82.1
副 腎	3	10.7	2	7.1	5	17.9
心(内, 中, 外)	3	10.7	1	3.6	4	14.3
肝 臟	0	0	18	64.2	18	64.2

百分率ノ計算法ハ小兒ニ同ジ、但シ成人例數28例、

粟粒大或ハヨリ小ナル結節ガ密ニ播種セラレタルモノ。

2. 所謂移行型 播種ハ左程密ニハアラザルモ、多クノ内臟ニ可ナリノ數ニ於テ粟粒結核ノ認めラル、モノ。

3. 慢性粟粒結核症 個々ノ結節ハ粟粒大ヨリ大ニシテ、全身結核症タル大小ノ結節アル型ニ移行スルモノ。

余ハ以上ノ Weigert ノ見解ニ從ヒテ全身粟粒結核症ヲ檢セリ。即チ所謂急性全身粟粒結核症ノ外ニ進行増悪セル臟器結核症例ニ於テ死期ニ瀕シ、個體ノ抵抗力ノ減ズルト共ニ菌ガ血行性ニ他臟器ニ播種セラレ、解剖ニ際シテ、或ハ固定後ノ鏡檢ニヨリ、數個ノ他ノ臟器ニ比較的新シキ、血行性ニ播種セラレタル粟粒結核ノ認めラル、モノモ此ノ内ニ含マルベシ。

表ニ示サマルモ余ノ諸例ヲ觀ルニ小兒ニ於テ腦及腦膜結核症 12例中全身粟粒結核症ヲ伴ヘルモノ 10例(83.4%)、成人ニ於テハ28例中19例(67.9%)、小兒成

人ヲ合スル時ハ40例中29例(72.5%)ニシテ、諸家ノ掲グル數値ニ近シト云ヒ得ベシ。

他方全身粟粒結核症例中腦及腦膜結核症ヲ伴ヘルモノノ頻度ヲ諸家ノ業績中ニ見ルニ Huebschmann<sup>(22)</sup> ハ10歳迄ノ小兒ニ於テ全身粟粒結核症ニシテ腦膜結核症ヲ有スルモノ 109例、有セザルモノ 10例、11歳以後ニ於テハ前者90例、後者56例、總計ニ於テハ前者 199例、後者66例アリタリ。又 Hartwich<sup>(16)</sup> ハ小兒成人全體ニ於テ粟粒結核症200例中133例(66.5%)ノ腦及腦膜結核症ヲ認メタリ。Rich and Mc Cordock<sup>(55)</sup> ハ小兒成人ヲ通ジテ粟粒結核症 75例中 64例ヲ、Blacklock and Griffin ハ13歳以下ノ小兒ニ於テ 258例中 202例ヲ認メタリ。

余ノ場合ハ小兒ニ於テ22例中10例(45.5%)ヲ、成人ニ於テハ 106例中19例(17.2%)ヲ認メタリ。即チ小兒及成人ヲ合セテ 128例中29例(22.7%)ヲ有セリ。是ヲ諸家ノ數値ニ比スルニ可ナリニ低キ頻度ヲ示セリ。

カクノ如キ相違ノ起レルハ其ノ生活狀況及ビ

氣候風土等ニ一部ノ原因アルベキモ、又粟粒結核症ノ判斷ニハ Huebschmann<sup>(22)</sup> モ言ヘル如ク主觀ノ加ハルニヨルベク、又脾臟、肝臟等ノ臟器ニ於テ肉眼的ニ粟粒結核ノ有無ヲ認知スル事容易ナラズ、顯微鏡檢査ニヨリテ初メテ判明スル事多キニモヨルモノナルベシ。而シテ腦及腦膜結核症ト粟粒結核症トノ伴ハル、頻度ガ成人ニ比シ小兒ノ方ニ大ナルハ諸家ノ認ムル所ニシテ、余ノ症例ニ於テモ可ナリノ相違ヲ示セリ。然ラバ何故ニカクノ如キ相違アルカニ關シ Rich and Mc Cordock ハ腦膜炎ト粟粒結核症トノ合併ト言フヨリモ腦膜炎ト其ノ獲タル抵抗力ノ程度ノ低キトノ合併ニ重キヲ置クベキト信ズト言ヘリ。小兒ニ於ケル淋巴裝置ヲ中心トスル體質的關係ト共ニ小兒ノ腦ノ特殊感受性モ與ルモノナラン。

其 2 肺 臟

前述セル如ク肺臟ニ結核性病變ヲ有スルモノ小兒11例、成人27例ナリ、而シテ小兒ニ於テハ第6表ノ如ク粟粒結核ノミヲ有スルモノ3例(25.0%)、粟粒ナラザル結核症8例(65.7%)アリ、一方同一期間中ニ剖檢セラレタルモノノ内肺ニ粟粒ナラザル結核ヲ有スルモノ16例ニシテ、此ノ中腦及腦膜結核症ヲ合併セルモノハ3例(18.8%)ナリ、成人ニ於テハ第7表ニ示セル如ク粟粒結核ノミヲ有スルモノ1例(3.6%)、粟粒結核ト陳舊性病竈ヲ有スルモノ1例、粟粒ナラザル結核症26例(92.9%)ナリ。又同一期間中ニ解剖セラレタルモノノ内肺ニ粟粒ナラザル結核症ヲ有スルモノ370例ニシテ、腦及腦膜結核症ヲ合併セルモノハ26例(7.02%)ナリ。而シテ小兒成人合計スル時ハ腦及腦膜結核症40例中肺結核症ヲ合併セルモノ34例(85.0%)ニシテ、肺結核症386例中腦及腦膜結核症ヲ合併セルモノ3例(8.8%)ナリ。即チ第8表ノ如シ。

第 8 表

	腦及腦膜結核症例 ニシテ肺結核症ヲ 合併セルモノ	肺結核症例ニシテ 腦及腦膜結核症ヲ 合併セルモノ
小 兒	25.0%	18.8%
成 人	92.9%	7.0%
合 計	85.0%	8.8%

翻ツテ文獻ヲ觀ルニ Brown<sup>(9)</sup> ハ肺結核症例

ノ8%ニ於テ腦膜結核症ヲ見、Cameron<sup>(10)</sup> ハ肺結核症187例、肺結核症及ビ他臟器結核症ヲ併發セルモノ28例、合計215例ノ屍中11例ノ腦膜結核症アリ。即チ肺結核症屍ノ5.1%ニ是ヲ見タリ。余ノ數値モ是等ト著シキ相違アルモノトハ言ヒ難シ。

從來腦膜結核症又ハ外科的結核症例ニ於ケル肺ノ病變ハ餘リ強カラザルヲ言ハレ、Schmaus u. Herxheimer<sup>(58)</sup> モ中樞神經系ノ結核症ハ輕キ肺結核症ニ伴ハル、ト言ヘリ。又體質ト肺ノ病變トノ關係ニツキテ Stefko<sup>(62)</sup> ハ發育不全體質者ニハ滲出型ノ肺結核ヲ見ズ、常ニ肺硬變ヲ以テ終ル純増殖型ヲ見ルト稱セリ。依テ余ノ症例ニ於ケル肺ノ變化ヲ檢セリ。

抑肺結核症ニ於ケル病型ノ分類ハ諸家ニヨリ種々ナリ。Beitzke<sup>(6)</sup> ハ續發性肺結核症ヲ分類シ、

A) 増殖性肺結核症

1. 播種性粟粒結核症 Disseminierte Miliartuberkulose.
2. 細葉性肺結核症 Azinöse Lungentuberkulose.
3. 細葉結節性肺結核症 Azinös-nodöse L.
4. 硬化性肺結核症 Zirrhatische L.

B) 乾酪性滲出性肺結核症

1. 細葉性乾酪性肺炎 Azinöse käsige Pneumonie.
2. 小葉性乾酪性肺炎 Lobuläre käsige P..
3. 大葉性乾酪性肺炎 Lobäre käsige P..

トナセリ。

余ハ肺ノ病變ヲ檢スルニ當リ、第9表ノ如ク滲出型ヲ伴ヘルモノ、増殖型、空洞ヲ有スルモノ、粟粒結核ニ分類シ、病理組織學的ニ滲出型ノ像ヲ有スルモノ、即チ Beitzke ノ分類ノB或ハBトAトヲ有スルモノヲ滲出型ヲ伴ヘルモノニ入レ、A(1ヲ除ク)ニシテBヲ有セザルモノヲ増殖型ニ入レタリ。而シテ空洞ヲ有スルモノハA Bノ如何ニ關セズ肺ニ空洞ノ存在スル症例ニシテ、粟粒結核トナセルモノ同ジクA Bノ如何ニ關セズ肺ニ粟粒結核ノ存在スル症例ナリ。尙ホ對照例トシ

第9表 小 兒

	腦及腦膜結核症	他臟器結核症
滲出型ヲ伴ヘルモノ	16.7%	73.3%
増殖型	58.3%	13.3%
空洞ヲ有スルモノ	8.3%	60.0%
粟粒結核	58.3%	33.3%

テ第2章ニ於テ述ベタル他臟器結核症例ヲトリタリ。

### 1. 小 兒

第9表ノ如ク腦及腦膜結核症例12例中滲出型ヲ伴ヘルモノ2例(12例ニ對シテ16.7%)ニシテ、増殖型7例(58.3%)ナリ。而シテ此増殖型ノ内1例ハ唯初期變化群トシテノ小ナル病竈ヲ右上葉ニ有スルノミノモノ、2例ハ初期變化群ト粟粒結核トヲ有スルモノ、又1例ハ陳舊性ノ米粒大ノ病竈ヲ左下葉ニ有スルノミノモノナリ。空洞ヲ有スルモノ1例(8.3%)、粟粒結核ヲ有スルモノ7例(58.3%)アリ。

他臟器結核症例ニ於テハ15例中滲出型ヲ伴ヘルモノ11例(15例ニ對シテ73.3%)ニシテ、増殖型2例(13.3%)、空洞ヲ有スルモノ9例(60.0%)、粟粒結核ヲ有スルモノ5例(33.3%)ナリ。

兩者ヲ比較スル時甚シキ相違ノ存スルヲ見ル。即チ腦及腦膜結核症例ニ於テハ對照例ニ比シ、滲出型ヲ伴ヘルモノ著シク尠ク、約 $\frac{1}{2}$ 弱ニシテ、反對ニ増殖型ノミノモノハ著シク多ク約4倍強ナリ。空洞ヲ有スルモノ甚ダ尠ク、粟粒結核ヲ有スルモノ可ナリニ多シ。

### 2. 成 人

第10表ノ如ク腦及腦膜結核症28例中滲出型ヲ伴ヘルモノ9例(32.1%)、増殖型18例(64.3%)、空洞ヲ有スルモノ18例(64.3%)、粟粒結核ヲ有スルモノ11例(39.3%)アリ。而シテ増殖型中1例ハ粟粒結核アル外ニ左上葉ニ陳舊性ノ病竈ヲ有スルノミノモノアリ。又粟粒

第10表 成 人

	腦及腦膜結核症	他臟器結核症
滲出型ヲ伴ヘルモノ	32.1%	68.2%
増殖型	64.3%	28.8%
空洞ヲ有スルモノ	64.3%	84.8%
粟粒結核	39.3%	12.1%

結核中1例ハ此以外肺ニ何等變化ヲ認メシメザルモノアリ。

對照例タル他臟器結核症66例中滲出型ヲ伴ヘルモノ45例(68.2%)、増殖型19例(28.8%)、空洞ヲ有スルモノ56例(84.8%)、粟粒結核ヲ有スルモノ8例(12.1%)アリ。而シテ粟粒結核中1例ハ左肺ニ粟粒結核ヲ有スル外何等肺ニ變化ヲ認メシメザリシモノアリ。尙肺ニ何等變化ナク、腎膀及ビ脊椎カリエス<sup>1)</sup>ヲ有スル1例アリタリ。

即チ腦及腦膜結核症ハ他臟器結核症ニ比シテ滲出型ヲ伴ヘルモノニ於テ約 $\frac{1}{2}$ 弱、増殖型ニ於テ約2倍強ナリ。空洞ヲ有スルモノ稍尠ク、粟粒結核アルモノ約3倍ナリ。

以上ヲ通覽スルニ腦及腦膜結核症ト他臟器結核症トノ各病型ニツキテノ%ノ大小ハ小兒成人共ニ同様ナレドモ、唯兩者ノ%ノ差ハ小兒ニ於テ極メテ甚シク、成人ニ於テハ多少緩和セラレ居ル點ハ注目スベシ。即チ滲出型ヲ伴ヘルモノニツキテ觀ルニ、小兒ニ於テハ約 $\frac{1}{4}$ 弱ナルニ成人ニ於テハ $\frac{1}{2}$ 弱トナリ、増殖型ニツキテハ4倍強ガ2倍強トナレリ。而シテ小兒成人ヲ通ジテ腦及腦膜結核症ハ増殖型ノモノ多クシテ滲出型尠ク、粟粒結核ヲ有スルモノ多クシテ空洞ヲ有スルモノ尠シ。即チ其ノ肺ニ於ケル變化ハ良性ノモノ多シト言ヒ得ベシ。抑患者ノ肺ニ於ケル變化ガ良性ニ經過シ居ルモ、死ニ瀕シテハ榮養甚シク不良トナリ、身體ノ抵抗力ヲ失ヒ、病勢増悪シテ滲出型ヲ伴ヒ來ル事ハ當然考ヘラルベク、生前ニ於ケル病型ノ關係ハ死後剖檢ノ際ニハ甚シク亂サレ居ルモノト思考セラル。然ルニ剖檢ノ結果ハ尙腦及腦膜結核症例ニ於ケル肺ノ變化ノ良性ナルモノ多シ。故ニ生前、病氣經過中其ノ肺ニ於ケル變化ハ、今此處ニ現レタル結果ヨリ遙ニ良性ノモノ多シト言ヒ得ベシ。又空洞ヲ有スルモノニ於テ尠キ點モ病變ノ輕キ事ヲ意味スル現レノツヲ示スベク、粟粒結核ヲ有スルモノ多キハ、腦及腦膜結核ノ殆ドガ血流ニヨル感染ナル點ヨリ領カル、事ナリ。

### 其3 淋 巴 腺

Kaufmann<sup>(20)</sup>ハ氣管支淋巴腺稀ニハ腸間膜淋巴腺ニ於ケル結核病竈(肺及ビ骨ニ於ケルモノ

モ共ニ)ヨリ血流ニヨリ軟腦膜へ菌ノ運バル、事多キヲ言ヒ、Engel<sup>(41)</sup>ニヨレバ氣管支淋巴腺ニ於ケル初期感染ノ變化大ナレバ早期ニ腦膜炎ヲ發スト、又前述セシ如ク小兒ニ腦膜炎ノ多キ理由トシテ淋巴腺ガ強ク侵サル、爲ナリトセリ。

余ノ症例ニ於テハ全例ノ淋巴腺ニ結核性病變ヲ認メタリ。而シテ小兒ニアリテハ腺ノ粟粒結核1例モナク、成人ニ於テハ粟粒結核ノモノ6例(21.4%)、粟粒ナラザル結核症22例(78.6%)ナリ。又同一期間中ニ解剖セラレタルモノノ内淋巴腺ニ粟粒ナラザル結核ヲ有スルモノ小兒27例(腦膜例モ含ム)、成人214例アリ。故ニ27例及ビ214例ノ淋巴腺結核症(非粟)例中腦及腦膜結核症ヲ伴ヘル頻度ハ小兒44.4%、成人10.3%ナリ。

淋巴腺結核症ノ變化ノ程度ヲ檢スルニ當リ、先ヅ病型分類ヲ諸家ノ業績ニ觀ルニ Baumgarten<sup>(4)</sup>ハ、1. 顆粒狀淋巴腺腫、2. 乾酪性淋巴腺腫、3. 硬化性結核性淋巴腺腫、4. 纖維性乾酪性淋巴腺腫、5. 淋巴肉芽腫ニ分チ、緒

方ハ一次性結核ト二次性結核トニ分類シ、我教室ニ於ケル岸<sup>(32)</sup>ハI, II, III類型ニ分類セリ。

余ハ乾酪電ヲ有スルモノト乾酪電ナキモノトニ分チ、肉眼的ニ或ハ顯微鏡的ニ乾酪化セル病電ヲ認メシムルモノヲ前者ニ含マシメ、淋巴腺結核アルモ乾酪病電ヲ認メ得ザルモノヲ後者ノ中ニ入レタリ。尙對照例ハ肺臟ノ檢査ニ用ヒタルト同一例ヲ用ヒタリ。

1. 小兒

第11表ノ如ク、氣管及氣管支淋巴腺ニ乾酪電ヲ有スルモノ11例ニシテ、全例(12例)ニ對シテ91.7%ナリ。腸間膜淋巴腺ニ乾酪電ヲ有スルモノ3例(25.0%)、前縱隔竇淋巴腺、大網淋巴腺ニ夫々1例(8.3%)アリ。體內何處ニモ乾酪化セル淋巴腺ヲ認メシメザルモノ1例(8.3%)アリ。他臟器結核症ニ於テハ氣管及ビ氣管支淋巴腺ニ乾酪電ヲ有スルモノ8例ニシテ、全例(15例)ニ對シテ53.6%ナリ。腸間膜淋巴腺ハ6例(40.0%)、前縱隔竇淋巴腺ハ1例(6.7%)ナリ。體內何處ニモ乾酪化セル淋巴腺ヲ認メシメザリシモノ5例(33.4%)ナリ。

第 1 1 表 淋 巴 腺

症 例		乾酪電ヲ有スルモノ			乾酪電ヲ認メシメザルモノ
		氣管及支氣管	腸間膜	前縱隔竇	
小兒	腦及腦膜結核症	91.7%	25.0%	8.3%	8.3%
	他臟器結核症	53.6%	40.0%	6.7%	33.4%
成人	腦及腦膜結核症	46.4%	32.1%	21.4%	35.7%
	他臟器結核症	24.2%	30.3%	6.1%	56.1%

即チ腦及腦膜結核症例ハ他臟器結核症例ニ比シ、氣管及ビ氣管支淋巴腺ノ乾酪化セルモノ多ク、腸間膜淋巴腺ニ於テハ尠ク、前縱隔竇淋巴腺ニ於テハ略等シク、全身ノ淋巴腺ニ乾酪電ヲ認メシメザルモノ甚ダ尠シ。

更ニ是ヲ其變化ノ強弱ニヨリ細別スレバ第12表小兒ノ如シ。[強]ハ乾酪化ガ廣範圍ニ渉ル時或ハ範圍狹クトモ其變化強キ時ニシテ、範圍餘リ廣カラザルカ、或ハ強カラザル乾酪化アルモノヲ[中]、結節ノミニシテ乾酪電ヲ認メシメザルモノヲ[弱]トシ、淋巴腺結核ノナキモノヲ[無]トセリ。即チ腦及腦膜結核症例ノ氣管及氣管支淋巴腺ニ於テハ[強]ニ屬スルモノ8例ニシ

テ、全12例ニ對シテ66.7%、[中]3例(25.0%)、[弱]1例(8.3%)、[無]ナシ。腸間膜淋巴腺ニ於テハ[強]1例(8.3%)、[中]2例(16.7%)、[弱]6例(50.0%)、[無]3例(25.0%)、又他臟器結核症15例ノ氣管及氣管支淋巴腺ニ於テハ[強]3例(15例ニ對シテ20.0%)、[中]5例(33.3%)、[弱]7例(46.7%)、[無]ナシ。腸間膜淋巴腺ニ於テハ[強]1例(6.2%)、[中]5例(33.3%)、[弱]7例(46.7%)、[無]2例(13.3%)ナリ。

即チ腦及腦膜結核症例ニハ他臟器結核症例ニ比シ、氣管及氣管支淋巴腺ノ變化強キモノ約3倍強ニシテ、變化弱キモノ約1/3ナリ。而シテ中等度ノ變化ノモノハ兩者間ニ大差ナシ。腸間膜淋巴腺ニ於テハ變化強キモ

第 1 2 表

淋 巴 腺	變 化 度	小 兒		成 人	
		腦及腦膜 結 核 症	他臟器 結核症	腦及腦膜 結 核 症	他臟器 結核症
氣 管 及 氣 管 支	強	66.7%	20.0%	10.7%	12.1%
	中	25.0	33.3	32.1	12.1
	弱	8.3	46.7	46.4	45.5
	無	—	—	10.7	30.3
腸 間 膜	強	8.3	6.2	7.1	3.0
	中	16.7	33.3	25.0	27.3
	弱	50.0	46.7	32.1	31.8
	無	25.0	13.3	35.7	37.9
前 縱 隔 竇	強			7.1	1.5
	中			14.3	4.5
	弱			3.6	7.6
	無			75.0	86.4

小兒前縱隔竇淋巴腺＝變化アルモノ甚ダ尠キ  
タメ是ヲ比較セズ。

ノ及ビ弱キモノ 兩者略等シク、中等度變化ハ約 $\frac{1}{2}$ 、  
變化ナキモノ約2倍ナリ。即チ氣管及氣管支淋巴腺ハ  
病變極メテ強ク、腸間膜淋巴腺ハ微ニ弱シ。

2. 成 人

成人28例中氣管及氣管支淋巴腺ニ乾酪電ヲ有スルモノ  
13例ニシテ第11表成人ニ見ル如ク28例ニ對シテ46.4  
%ナリ。腸間膜淋巴腺9例(32.1%)、前縱隔竇淋巴腺  
6例(21.4%)、肝門、大網ノ淋巴腺ニ夫々1例アリ。  
全身中ノ淋巴腺ニ於テ乾酪化セル淋巴腺ヲ認メシメザ  
ルモノ10例(35.7%)アリ。對照例ニ於テハ氣管及氣管  
支淋巴腺ニ乾酪電ヲ有スルモノ16例ニシテ、全66例ニ  
對シテ24.2%、腸間膜淋巴腺20例(30.3%)、前縱隔竇  
淋巴腺4例(6.1%)、全身中ノ淋巴腺ニ乾酪化セルモノ  
ヲ認メシメザリシモノ37例(56.1%)アリタリ。即チ  
腦及腦膜結核症例ハ他臟器結核症ニ比シ、其乾酪化セル  
モノノ氣管及氣管支淋巴腺ニ於テ約2倍、前縱隔竇淋  
巴腺約3倍強ニシテ、腸間膜淋巴腺ハ兩者略相等シク、  
乾酪電ヲ認メシメザルモノニ於テ尠シ。又腦及腦  
膜結核症例ニ於ケル小兒ト成人トヲ比較スルニ、小兒  
ノ方氣管及氣管支淋巴腺ノ乾酪化セルモノ多ク、前縱  
隔竇淋巴腺ノ乾酪化セルモノ及ビ乾酪電ヲ認メシメザ

ルモノ甚ダ尠シ。

小兒ニ於ケル如ク淋巴腺ノ變化ノ強弱ニヨリ細別ス  
レバ第12表成人ノ如シ。腦及腦膜結核症例ノ氣管及氣  
管支淋巴腺ニ於テハ[強]ニ屬スルモノ3例ニシテ28  
例ニ對シテ10.7%ナリ。[中]9例(32.1%)、[弱]13例  
(46.4%)、[無]3例(10.7%)ナリ。腸間膜淋巴腺ニ於  
テハ[強]2例(7.1%)、[中]7例(25.0%)、[弱]9例  
(32.1%)、[無]10例(35.7%)、前縱隔竇淋巴腺ハ[強]  
2例(7.1%)、[中]4例(14.3%)、[弱]1例(3.6%)、  
[無]21例(75.0%)ナリ。又他臟器結核症例ニ於テハ氣  
管及氣管支淋巴腺ノ[強]ニ屬スルモノ8例ニシテ66例  
ニ對シテ12.1%ナリ。[中]8例(12.1%)、[弱]30例  
(45.5%)、[無]20例(30.3%)、腸間膜淋巴腺ニ於テハ  
[強]2例(3.0%)、[中]18例(27.3%)、[弱]21例(31.8  
%)、[無]25例(37.9%)、前縱隔竇淋巴腺ニ於テハ[強]  
1例(1.5%)、[中]3例(4.5%)、[弱]5例(7.6%)、  
[無]57例(86.4%)ナリ。

依テ兩者ヲ比較スルニ、表ニ觀ルモ明ナル如ク腦及  
腦膜結核症例ニハ對照例ヨリモ氣管及氣管支淋巴腺ニ  
於テハ、變化強キモノ及ビ弱キモノハ略等シク、中等  
度ハ約3倍弱、變化ナキモノ約 $\frac{1}{2}$ ナリ。腸間膜淋巴腺  
ニ於テハ變化強キモノ約2倍強ニシテ他ハ略等シ。前  
縱隔竇淋巴腺ニ於テハ變化強キモノ約5倍弱、中等度  
約3倍強、弱キモノ約 $\frac{1}{2}$ ニシテ、變化無キモノハ略等  
シ。

以上ニヨリ小兒及ビ成人ヲ通ジテ、腦及腦膜  
結核症例ニハ他臟器結核症ニ比シ、氣管及氣管  
支淋巴腺ノ變化ヲ伴ヘルモノ多ク、又成人前縱  
隔竇淋巴腺ノ變化モ強シ。而シテ腸間膜淋巴腺  
ニ於テハ僅ニ強キ感アルモノ略等シト言ヒ得ベ  
シ。

其 4 生 殖 器

余ノ症例中小兒ニ於テハ生殖器ニ結核性變化ノ認メ  
ラレタルモノナシ。成人ハ腦以外ヲ開檢セザリシ1例  
ヲ除イテ男子19例、女子9例ニシテ、此ノ中生殖器ニ  
結核性變化アルモノ、男子ニハ5例ニシテ、19例ニ對  
シテ26.3%ヲ算シ、全部粟粒ナラザル結核症ナリ。全  
例ニ於テ攝護腺ガ侵サレ、内1例ハ攝護腺ノ他ニ副辜  
丸及ビ精囊ニ結核性變化見ラレタリ。女子ニハ2例ニ  
シテ、9例ニ對シテ22.2%ナリ。1例ハ卵巢及ビ陰ニ  
結節多數存シ、他ハ結核性輸卵管炎及ビ結核性子宮内  
膜炎ヲ有シタリ。而シテ男女合計スル時ハ7例ニシ

テ、28例ニ對シテ 25.0%ナリ。

是ト同一期間中ニ粟粒ナラザル生殖器結核症ハ、男子ニ18例、女子ニ17例存セリ、故ニ生殖器結核症例中腦及腦膜結核症ヲ有スルモノハ男子 27.8%、女子 10.5%、男女合計 18.9%ナリ。即チ第13表ノ如シ。

第 1 3 表

	腦及腦膜結核症例ニシテ生殖器結核症ヲ合併セルモノ	生殖器結核症例ニシテ腦及腦膜結核症ヲ合併セルモノ
男 子	26.3%	27.8%
女 子	22.2%	10.5%
合 計	25.0%	18.9%

翻ツテ是ニ關スル文獻ヲ繙クニ Simmonds<sup>(60)</sup>ハ結核性腦膜炎ト男子生殖器結核症トガ驚クベク屢々合併セル事ヲ主張シ、從ツテ結核性腦膜炎ヲ有スル症例ニ於テハ生殖器系ニ注意ヲ向ケザルベカラズト言ヘリ。Kaufmann<sup>(29)</sup>モ是ヲ認め、生殖器結核症例 100 例中 33例ニハ結核性腦膜炎ヲ併發セリ。而シテ 20歳ヨリ 30歳ニ至ル期間ニ於テ比較的ニ甚ダ高キ數値ヲ示スト言ヘリ。然ルニ Steinmeier<sup>(63)</sup>ハ腦膜結核症中同時ニ生殖器系統ノ結核症ヲ有スルモノアルモ Simmonds 等ノ示セル數値ニ比スレバ常ニ少シトナセリ。

余ノ例ニ於テハ男子ノ腦及腦膜結核症例中生殖器結核症ヲ有スルモノ、及ビ生殖器結核症例中腦及腦膜結核症ヲ有スルモノ共ニ上表ニ示セル如ク女子ハ男子程合併スル頻度大ナラザリシト言ヒ得ベク、余ノ例ニ於テモ成人男子ニアリテハ兩者ノ間ニ可ナリノ關係アルヲ暗示セリ。

然ラバ何故ニ、カク兩者密接ナル關係ヲ示スモノナリヤニツイテ諸家(Simmonds, Kaufmann Steinmeier 等)ノ説ヲ觀ルニ、明確ナル説明ヲ與ヘタルモノヲ見ズ。余ノ場合ニ於テモ小兒期ニ於テハ其ノ合併セルヲ認めズ。又第14表ニテ示サル、如ク、26歳ヨリ 35歳ニ至ル10年間ニ最も多ク合併セル點ニ鑑ミルモ、活潑ナル性行爲トノ間ニ直接並ニ間接ノ關係ヲ有スルモノニアラザルカラ思ハシム。

第14表 年齢別ニ觀タル腦及腦膜結核症ト生殖器結核症トノ合併

性 年齢	男	女	計
0—14	0	0	0
15—25	2	0	2
26—35	3	2	5
36→	0	0	0

其 5 其 他

1. 肋 膜

小兒腦及腦膜結核症例中肋膜ニ結核性變化ノ認めラレタルモノ 5 例ニシテ、内粟粒結核ノミノモノ 2 例、粟粒ナラザル結核症 3 例ナリ(粟粒ナラザル結核症トセルハ粟粒ナラザル結核、或ハ是ト粟粒結核トヲ共ニ有スルモノヲ意味セリ)。成人ニテハ 9 例ニシテ全部粟粒ナラザル結核症ナリ。

更ニ粟粒ナラザル結核症ヲ滲出性炎ヲ主トスルモノ及ビ増殖性炎ヲ主トスルモノニ分ツニ、小兒ニ於テハ前者 1 例モナク全部後者ニシテ、成人ニ於テハ前者 2 例、殘ル全部ハ後者ナリ。是ヲ表記スレバ第15表ノ如ク、増殖性炎ヲ主トスルモノ甚ダ多シ。

第15表 肋膜ノ状

	滲出性炎ヲ主トスルモノ	増殖性炎ヲ主トスルモノ	粟粒結核ノミノモノ
小 兒	0	3	2
成 人	2	8	0
計	2	11	2

2. 腹 膜

結核性腹膜炎ノアルモノ小兒ニ於テ 5 例ニシテ、内粟粒結核ノミノモノ 3 例、粟粒ナラザル結核症 2 例ナリ。他ニ陳舊性病變ヲ有スルモノ 1 例アリ。成人ニ於テハ 12 例ニシテ、全部ハ粟粒ナラザル結核症ナリ。是ヲ肋膜ニ於ケルト同ジク分類スレバ第16表ノ如シ。即チ小兒ニテハ滲出性炎ヲ主トスルモノナク、2 例共増殖性炎ヲ主トスルモノナリ。成人ニテハ前者 1 例ニシテ後者 11 例ナリ。即チ小兒成人共ニ殆ド總テ増殖性炎ナリ。尙ホ穿孔性腹膜炎ハ 1 例モ是ヲ有セズ。

第16表 腹膜ノ状

	滲出性炎 ヲ主トス ルモノ	増殖性炎 ヲ主トス ルモノ	粟粒結核 ノミノモ ノ	陳舊性病 竈ヲ有ス ルモノ
小 兒	0	2	3	1
成 人	1	11	0	0
計	1	13	3	1

### 3. 骨及ビ關節

Kaufmann<sup>(29)</sup> ハ小兒成人共ニ骨ノ結核性病竈ヨリ血流ニヨリ腦膜ニ菌ノ運バル、事アルヲ云ヘリ。然レドモ余ノ場合ニ於テハ小兒ニ骨及關節ニ結核性變化ノアルモノナカリキ。成人ニ於テハ5例アリテ、内3例ハ結核性脊椎カリエス」ヲ有シ、内1例ニハ此ノ外ニ1年前左足關節、趾、右足背、前脛部ニ腫脹及ビ潰瘍アリテ、兩足ヲ切斷セルモノナリ。他ニ慢性結核性左大腿骨髓炎、結核性右膝關節炎ヲ有セル各1例アリ。其他1例ニハ6年前ニ結核性關節炎ノ爲メ右足ノ切斷セラレタルモノアリ。即チ骨及關節結核症ノ伴ハル、モノ可ナリニ多シト云ヒ得ベシ。

### 4. 副 腎

小兒ニハ結核性變化アルモノヲ認メズ。成人ニ於テハ粟粒結核症2例、粟粒ナラザル結核症3例アリ。

### 5. 腎 臟

小兒ニ於テハ粟粒結核ノミノモノ6例、粟粒ナラザル結核症2例アリ。成人ニテハ前者6例、後者10例ニシテ、腎臟結核症ノ伴ハルモノ亦可ナリニ多シ。

### 6. 脾 臟

小兒ニ於テハ粟粒結核ノミノモノ9例、粟粒ナラザル結核症1例アリ。成人ニ於テハ前者20例、後者3例ナリ。

### 7. 肝 臟

小兒ニハ粟粒結核ノミノモノ9例、粟粒ナラザル結核症1例アリ。成人ニテハ粟粒結核ノミノモノ18例ニシテ、粟粒ナラザル結核症ハ存セザリキ。

## 其6 總 括

前述セル如ク中村<sup>(47)</sup>ハ淋巴體質或ハ胸腺淋巴體質及ビ發育不全體質等ノモノハ淋巴腺、腸、泌尿器、副腎、骨、腦等ニ結核症ノ來ル事多ク、肺結核ニハ比較的素因少ク、纖維性トナリ硬化セントスル傾向アリト言ヘリ。

余ノ結果ヲ觀ルニ肺ニ於ケル病變ハ良性ニシ

テ、腸間膜ヲ除ク他ノ淋巴腺ノ變化ハ重ク、肋膜、腹膜ハ増殖型ヲ主トセルモノ大部分ヲ占メ、且生殖器、泌尿器、腹膜、肋膜、骨及ビ關節等ノ結核症ノ伴ハル、事多キ點等ヨリ考ヘ、Westenhöfer<sup>(70)</sup>ノ言ヘルガ如ク、腦及腦膜結核症ハ淋巴體質者ニ多キニアラザルカラ思惟セシム。

## 第3項 臟器重量其他

體質ト各臟器重量及ビ大動脈幅徑、蟲様突起ノ長さ等トノ關係ハ、從來多クノ學者ニヨリテ論ゼラレタリ。余モ亦此ノ間ノ消息ヲ知ラントシ、各ニツキテ檢セリ。余ノ症例ニ於ケル各臟器計數ヲ表ヲ以テ記スレバ第17表ノ如シ。

### 其1 腦

體質ト腦重量トノ間ニ密接ナル關係アル事ハ亦注目セラル、所ニシテ、Rokitansky<sup>(66)</sup>、Milo-slavich<sup>(41)</sup>、長與<sup>(45)</sup>等ハ胸腺淋巴體質者ノ腦ノ重量大ナリト言ヒ、Stefko<sup>(62)</sup>ハ發育不全型體質者ノ腦量大ナル事ヲ言ヘリ。

余ノ症例ニ於ケル腦重量ヲ檢スルニ當リ、邦人腦重量ニツキテ研究セル田口<sup>(64)</sup>、長與<sup>(46)</sup>、木村<sup>(60)</sup>、吉澤<sup>(74)</sup>、天野-林<sup>(2)</sup>ノ諸氏ノ報告ニヨル數値ヲ以テ標準トナシ、是ニ比較セリ。便宜上此等諸氏ノ數値ヲ表記スレバ第18表ノ如シ。而シテ余ノ症例中7、19、26ノ3例ハ腦量ノ記載ナキ爲除外シ、又腦膜結核症ト腦結核症或ハ腦膜腦結核症トハ其ノ重量檢査ニ當リ區別スベキモノト思惟セル爲別個ニ取扱ヘリ。依テ檢査セル例數ハ腦膜結核症ハ小兒9例、成人21例ニシテ、腦結核症及ビ腦膜腦結核症ハ小兒2例、成人6例ナリ。秤量ハ腦ニ入刀セザル前ニ行ヒ、腦室内ノ液モ重量内ニ加算サレ居レリ。

### 1. 腦膜結核症

余ノ諸例ノ腦重量ヲ上記諸氏ノ示セル數ヲ標準トシ比較シ、其輕重ヲ定メ第19表ヲ得タリ。即チ小兒ニ於テハ標準量ノモノ2例ニシテ、輕キモノ1例モナク、重キモノ7例ナリ。成人ニ於テハ標準量ノモノ6例、輕キモノ8例、重キモノ7例ニシテ輕キモノト重キモノト略同數トナリ、小兒成人ヲ合スル時ハ標準量ノモノ8例、輕キモノ8例、重キモノ14例トナリ、重キモノ多シ。

第 1 7 表

檢 查 番 號	剖 檢 番 號	年 齡 · 性	體 重	腦		肝 臟		心 臟		脾 臟		腎 臟				大 動 脈	蟲 突 樣 起	甲 狀 腺		副 腎		辜 丸			
				絕 對 重 量	比 較 重 量	絕 對 重 量	比 較 重 量	絕 對 重 量	比 較 重 量	絕 重		比 重		起 幅 始 部 徑	長 サ			絕 對 重 量	比 較 重 量	絕 重	比 重	左	右	左	右
										左	右	左	右												
1	1334	7月♀	7.2	775	291	30.4	42	5.83	26	3.61	27	30	3.75	4.16	2.3										
2	1887	15月♂		1100	270		65		24.7		38	35			3.2	7.2	1.6		2.7	2.7	1.2	1.7			
3	1606	1年11月♂	7.8	1270	335	42.9	44	5.64	43	5.51	43	35	5.51	4.48	3.5	6	2.0	0.25	2.5	1.5	0.7	0.5			
4	1555	4歳♂	9.3	1050	390	41.9	53	5.69	83	8.92	40	40	4.31	4.31		6	2.8	0.30	2.0	1.8					
5	1902	5♂		1450			80								3.8	10			2.9	2.7	0.8	0.85			
6	1273	6♂	10.8	1276	414	38.3	55	5.09	25	2.31	44	44	4.07	4.07		8.5									
7	1239	8♂	16.0		630	39.3	100	6.25	100	6.25	70	80	4.37	5.00	3.8	7									
8	2346	8♂	15.4	1380	380	24.6	55	3.57	37	2.40	37	37	2.40	2.40	4.0	4			2.7						
9	1804	13♂	22.5	1460	758	33.7	163	7.24	55	2.44	107	100	4.75	4.44	5.6	8	5.7	0.25	5.5	2.9	5.7	5.4			
10	1720	13♂	18.0	1493			143	7.94	201	11.1	85	95	4.72	5.27	4.5	10	8.1	0.45	4.3	4.1	1.7	2.1			
11	2032	14♂	11.8	1405	840	71.2	128	10.8	81	6.86	125	200			4.5	5	4.8	0.40	3.5		0.8	0.9			
12	2347	14♂	22.3	1575	894	40.0	142	6.36	68	3.04	74	74	3.31	3.31	4.5	8	5.8	0.26	5.5	4.5	0.7	0.7			
以 上 小 兒 以 下 成 人																									
13	1815	17♂	34.9	1536	1430	41.0	240	6.87	126	3.07	152	146	4.35	4.18	5.0	13	17.7	0.50	6.9	6.0	11.0	9.3			
14	1949	17♀	29.5	1255	836	28.3	156	5.28	70	2.37	72	83	2.44	2.81	3.5		8.5	0.28	6.7	5.6					
15	2311	17♂	27.0	1487	957	35.4	156	5.77	71	2.61	110	105	3.88	3.88	5.0		9.0	0.33	5.5	5.5	5.0	6.5			
16	1369	18♀	33.5	1290	991	29.6	147	4.38	101	4.80	97	93	2.89	2.77	5.0		8.5	0.25							
17	2221	18♂		1398	878		185		119		131	115			5.8	9	17.0		6.0	4.0	6.0	5.5			
18	2247	18♂	48.8	1575	1303	26.7	250	5.12	165	3.37	134	166	2.74	3.40	6.0	5	11.5	0.26			6.5	6.5			
19	1718	19♀	36.9		1384	37.5			245	6.36	122	130	3.30	3.50			12.0	0.32	5.3	5.5					
20	2241	19♀	35.5	1170	1180	33.2	172	4.84	137	3.85	90	125	2.53	3.52	5.0	6	14.0	0.39	4.5	4.5					
21	1890	19♂	40.3	1322	1440	35.7	209	5.18	174	4.31	95	95	2.35	2.35	5.5	8	19.0	0.47	5.0		4.5	4.9			
22	1988	20♀	36.0	1155	1500	41.7	200	5.55	117	3.22	215	195	5.97	5.41	4.5	5	9.0	0.25	6.5	8.5					
23	1694	22♂	28.0	1410	850	30.3	207	9.39	90	3.21	113	102	4.03	3.64	5.0	10.5	10.4	0.37	6.6	6.1	5.6	5.6			
24	1967	23♀	27.6	1122	1146	41.5	175	6.34	100	3.62	91	98	3.29	3.55	5.0		14.5	0.52	4.0	5.5					
25	2202	24♂	36.5	1427	1330	36.4	240	6.57	167	4.57	186	185			6.0	6	18.0	0.49	6.0	5.0	10.0	10.5			
26	1853	25♂	37.0		1115	30.1	120	3.24	150	4.05	115	105	3.10	2.83	5.4	11	19.6	0.52	6.4	6.5	10.1	10.1			



27	1158	26♀	28.0	1205	860	30.7	170	6.07	75	2.67	130	120	4.64	4.28	6							
28	1631	26♂	40.4	1267	1153	28.5	230	5.69	136	3.36	132	140	3.26	3.46	5.5	12	13.0	0.32	6.0	6.7	8.5	10.0
29	1527	26♀	29.1	1340	1080	37.1	217	7.45	146	5.01	130	130	4.46	4.46	認メ ズ	15.0	0.51	6.2	5.3			
30	1857	28♂	30.4	1386	1136	37.0	160	5.26	218	7.12	136	130	4.47	4.27	5.5	18.0	0.59	認メ ズ				
31	1714	30♀	28.5	1315	1535	53.8	240	8.42	100	3.85	176	155	6.17	5.43	5.3			7.7	6.3			
32	1958	30♂	37.0	1284	870	23.5	230	6.21	140	3.78	147	120	3.97	3.24	7.0	3	21.5	0.58	5.0	4.5	7.5	8.5
33	2276	30♂	29.4	1360	950	35.7	212	7.21	110	3.74	125	135	4.25	4.59	6.0	12	11.0	0.37	9.5		11.0	10.0
34	1726	32♂	39.8	1255	1445	36.3	292	8.33	125	3.14	215	168	5.40	4.22	4.5	10	21.0	0.52	7.0	7.6	9.2	
35	1921	32♂	28.0	1450	1200	42.9	240	8.57	112	4.00	140	143	5.00	5.10	6.5	8	14.0	0.50	4.5	6.5	7.4	9.4
36	2049	33♂	39.0	1520	1530	39.2	330	8.46	86	2.20	187	175	4.79	4.48	5.7	8	16.0	0.41	5.5	6.5		
37	1379	34♂	26.8	1350	913	34.1	185	6.90	137	5.11	150	150				8.5	0.31					
38	2293	38♂	33.5	1465	1200	35.8	230	6.86	132	3.94	151	153	4.50	4.56	6.0	5			9.2		8.0	9.0
39	1200	39♂		1225		200									5.7	8						
40	2064	60♂	43.8	1122	936	21.4	208	4.74	67	1.52	140	120	3.19	2.73	6.7	6	11.0	0.25	4.7	4.2	5.3	5.0
41	1721	45♂		1557	腦以外ハ開檢セズ																	

$$\text{絶対重量} = \text{當該臓器重量}$$

$$\text{比較重量} = \frac{\text{絶対重量}}{\text{體重}} \times 100$$

第 1 8 表

	田 口		長 興		木 村		吉 澤		天野一林	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
生後-5月		6-7月		540						6-7月
6月-1年		585								661.5
1年-2年	812	890	1065	1016			1065	991	969.5	880.5
2-3										
3-4	1066	796							1111.0	1039.0
4-5										
5-6									1274.0	1078.0
6-7	1181	966	1284	1186			1267	1175	1340.5	1169.0
7-8									1359.0	1203.0
8-9										
9-10										
10-11	1234	1124	1283	1198			1331	1180	1317.5	1211.5
11-12										
12-13										
13-14										
14-15	1345	1226	1336	1241	1414	1284	1364±122	1262±80	1368.6	1245.0
15-20					1422	1241			1395.7	1252.9
20-25	1350	1264	1393	1250	1408	1246	1402±111	1242±68	1383.6	1248.0
25-30					1406	1235			1379.0	1255.5
30-35	1374	1210	1376	1239	1439	1260	1377±103	1238±57	1369.1	1249.5
35-40					1402	1225			1371.4	1236.6
40-45	1371	1179	1373	1236	1398	1276	1356±81	1262±72	1397.9	1217.3
45-50					1350	1253			1357.8	1214.5
50-55	1389	1252	1342	1237	1378	1239	1368±106	1200±68	1376.5	1245.0
55-60										
60-65									1357.5	1249.0

第19表 腦重量

		輕キモノ	標準量	重キモノ
腦膜結核症	小兒	0	2	7
	成人	8	6	7
	計	8	8	14
腦腦結核症 及腦膜	小兒	0	0	2
	成人	3	0	3
	計	3	0	5

然ルニ第18表ニ見ル如ク東北地方ニ於テ測定セル木村ノ數値ガ他地方ニ於テ測定セル諸氏ノ數値ニ比シテ可ナリ高キ數値ヲ示セリ。是ニツキテ長與<sup>(45)</sup>ハ東北人ノ腦重量ニ就テ研究セル黒川<sup>(37)</sup>ニ對シテ、東京帝國大學ノ材料ニテ觀察セル氏ノ重量ノ輕キ事ヲ言ヒ、長澤<sup>(44)</sup>及ビ其ノ一門ニ依リテナサレタル犯罪者腦髓ノ研究中一般人ヨリモ重キ腦重量ヲ有スル是等犯罪者中ニ於テモ東北人ハヨリ重キモノナルヲ發表シ、吉田<sup>(73)</sup>モ東北地方人ノ腦重量大ナル事ヲ言ヘリ。余ノ場合地方的關係アルベキ木村ノ數値ヲ除外シ、他ノ諸氏ノ數値ノミヲ標準値トナス時ハ其ノ數値小トナリ、從ツテ成人ニ於テモ腦重量ノ重キモノ少シク多キ結果トナルベシ。

次ニ腦重量ノ平均値ヲ求メタルニ第20表ノ如シ。

第 2 0 表

		年 齡	例數	平均腦重量
腦 膜 結 核 症	男	17歲—38歲	14	1399.3g
	女	17—30	6	1231.6g
腦及腦膜 腦結核症	男	18—45	4	1419.8g
	女	23—39	2	1231.0g

木村<sup>(30)</sup>ハ結核性腦膜炎ニ於テハ一般ニ著明ナル重量増加ヲ示シ居リ、特ニ5歲ヨリ15歲頃迄ハ非常ニ増大シ得ル可能性ヲ示セリト言ヘリ。上記ノ如ク余ノ症例モ亦然リ。然ラバ何故ニ如斯ク腦重量大ナルカ。

腦重量ニ變化ヲ與フベキ原因トシテ考ヘラレタルモノ多クアリ。即チ長與<sup>(45)</sup>ハ種々ノ腦疾患、死因、死期ニ於ケル腦ノ含水量、身長、體重等ヲ擧ゲ、Stefko<sup>(62)</sup>ハ發育不全體質者ノ腦量ノ大ナルニハ、本體質者ニ於ケル腦水腫、靜脈鬱血等ヲ顧慮スベキヲ注意セリ。然レドモ一方長與<sup>(45)</sup>ハ又胸腺淋巴體質或ハ淋巴體質ノ場合腦重量ノ大ナルヲ注意セリ。余ノ場合腦膜炎罹患ニヨル腦量ノ變化モ勿論留意スベキモノナランモ、小兒ニ於ケル腦量ノ大ナルコト著シキハ是ノミニテハ説明シ得ザルモノト思惟セラル。即チ體質的關係ニ基ケル腦量ノ大ナル事ヲ認ムベキナリ。然レドモ一方木村ハ著明ナル胸腺淋巴體質者ニアリテ腦量ノ輕キモノアルヲ否定シ能ハズト言ヒ、腦量ガ普通ヨリモ遙ニ大ナルモノノ中ノ一部丈ニ胸腺肥大、胸腺淋巴體質ヲ見ルノミト結論セリ。

2. 腦結核症及ビ腦膜腦結核症

本症ニアリテハ第19表ニ示セル如ク、小兒ニ於テハ2例共標準ヨリ重ク、成人ニテハ標準量ノモノナク、輕キモノ3例、重キモノ3例ナリ。又平均腦重量ハ第20表ノ如シ。是ニヨリテ觀ルニ腦膜炎ノ場合ヨリ男子ニ於テ微ニ重ク、女子ニ於テハ差異ナク、總體トシテ餘リ差異ナシト云ヒ得ベシ。小兒ニ於テハ腦膜炎ト同様其大ナルコト著シ。

其 2 肝 臟

Schridde<sup>(59)</sup>ハ先天性胸腺 淋巴體質者ノ肝臟重量ガ大ナリシ事ヲ言ヘリ。邦人肝臟ノ重量ニツキテ唐澤<sup>(27)</sup>、大浦<sup>(72)</sup>等ノ研究アリ。余ノ症例ニ於ケル肝臟ノ重量ヲ檢スルニ當リ、氏等ノ業績ヲ以テ標準トセリ。唐澤ハ15歲以下ノ小兒ニツキテ絶對重量ヲ量リ、大浦ハ小兒成人ヲ通ジテ絶對重量及ビ比較重量ヲ量レリ(第21表)。依テ余ノ症例中絶對重量ヲ小兒ニテハ兩氏、成人ニテハ大浦ニ、又比較重量ヲ小兒成人共ニ大浦ニ比較セリ。即チ腦ニ於テ標準ヲ定メタルト同ジ方法ニヨリ、當該年齡期間ニ於ケル最低量ヨリ最高量ニ至ル間ヲ標準トナセリ。是ヲ表フ以テ記セバ第22表ノ如シ。

余ノ症例ニ於テ肝臟重量ノ量ラザリシモノ3例(5, 10, 39)、體重ノ計量ナキ爲比較重量ノ計算出來ザ

第 21 表 肝 臟

唐 澤		大 浦				
年 齡	絶對重量	年 齡	絶對重量		比較重量	
	♂ ♀		♂	♀	♂	♀
7 月	195.0	7 月		290		42.5
1-1.5年	304.0	1½年	342		48.5	
1.5-1.9年	342.5	2年	357		48.3	
2年	370.5	3	405		44.3	
3	373.0	4	465		40.5	
4	444.0	5	493		38.7	
5	429.0	6	490		45.2	
6	496.0	7	525		40.4	
7	589.0	8	556		39.6	
8	616.0	9	539		36.0	
9	508.0	10	661		31.8	
10	596.0	11	712		52.5	
11	873.0	12	819		39.7	
12	887.0	13	831		43.7	
13	645.0	14	1042		41.5	
14	793.0	15	844	1026	30.3	38.8
		16	987	870	27.8	26.2
		17	1168	1252	38.8	37.0
		18	1236	1208	33.8	36.8
		19	1185	1256	32.3	35.8
		20	1250	1105	33.9	35.8
		21	1242	1339	31.6	39.2
		22	1312	1247	31.8	33.3
		23	1337	1160	33.5	35.9
		24	1283	1307	32.9	33.4
		25	1334	1272	32.2	34.3
		26-30	1222	1114	28.6	30.8
		31-35	1279	1204	30.8	32.9
		36-40	1209	1171	28.4	31.1
		41-45	1219	1172	28.3	30.1
		46-50	1232	1091	30.2	30.9
		51-55	1104	1002	29.4	30.3
		56-60	1165	1062	29.3	30.0
		60→	1264	1001	28.9	28.0

ルモノ 2 例(2, 17)アリ。尚外=41ハ腦以外ハ開檢セザリシ爲以後ノ檢査ニ於テ本例ハ除外スベシ。即チ使用ノ出來タルモノノ絶對重量ニテハ小兒10例, 成人27例, 比較重量ニテハ小兒9例, 成人26例ナリ。

#### 絶對及比較重量

余ノ得タル價値ヲ第22表ニ掲ゲシ標準値ニ比較シ是等ヲ表ヲ以テ記セバ第23表ノ如シ。

即チ絶對重量ニ於テハ輕キモノノ方, 重キモノニ比シ多ク, 比較重量ニ於テハ重キモノノ方輕キモノニ比シテ多シ。是ニヨリテ觀ルニ肝臟重量ハ余ノ場合ニ於テハ餘リ體質ヲ云爲スルニハ關係少キモノノ如シ。

#### 其 3 心 臟

邦人心臟ノ重量ニツイテ金子-奥田<sup>(72)</sup>及ビ我

教室ニ於ケル村田<sup>(48)</sup>等ノ研究アリ。余ノ症例ニ於ケル心臟ノ重量ヲ檢スルニ當リ村田ノ業績ヲ以テ標準量トナシ是ニ比較セリ。村田ノ得シ數値ハ第24表ニ示セル如シ。

余ノ症例中19ハ心臟ノ重量, 2, 5, 17, 39ハ體重ヲ計量セラレ居ラズ。故ニ絶對重量ニ於テ小兒12例, 成人27例ヲ, 比較重量ニ於テ小兒10例, 成人25例ヲ檢セリ。

#### 絶對及比較重量

余ノ得シ數値ヲ村田ノ得シ所ト比較シテ表記スレバ第25表ノ如シ。

絶對重量ニ於テハ輕キモノノ可ナリニ多ク, 比較重量ニ於テハ重キモノノ微ニ多キガ如シ。

先ニ村田ハ15歳乃至50歳ヲ通ジ結核性疾患ニ於テハ

第22表 肝 臟

年 齡	標 準 量			
	絶 對 重 量		比 較 重 量	
	♂	♀	♂	♀
7 月		195—290		42.5
1—1.5年	283—304			
1.5—2.9	342—370			
3—3.9	373—405		38.7—48.3	
4—4.9	444—465			
5—5.9	429—493			
6—6.9	490—496			
7—7.9				
8—8.9	556—616		31.8—45.2	
9—9.9				
10—10.9				
11—11.9				
12—12.9				
13—13.9	645—831		39.7—52.5	
14—14.9	793—1042			
15—20	844—1250	870—1256	27.8—38.8	26.2—38.8
21—30	1222—1337	1114—1339	28.6—33.5	30.8—39.2
31—40	1209—1279	1171—1204	28.4—30.8	31.1—32.9
41—50	1219—1232	1091—1172	28.3—30.2	30.1—30.9
51—60	1104—1165	1002—1062	29.3—29.4	30.0—30.3

第23表 腦及腦膜結核症例ニ於ケル肝臟

重 量		輕キモノ	標準量 ノモノ	重キモノ
		小 兒	5	4
比 較 重 量	成 人	13	6	8
	計	18	10	9
比 較 重 量	小 兒	2	6	1
	成 人	3	11	12
	計	5	17	13

第24表 村田ニヨル心臟重量

年 齡	絶 對 重 量		比 較 重 量		
	♂	♀	年 齡	♂	♀
初生兒—5	38	34	0—5	7.23	7.59
6—10	78	99	6—10	5.67	6.62
11—15	149	159	12—13	6.66	4.74
16—20	211	185	15—17	5.82	5.39
21—25	258	188	18—20	6.15	5.42
26—30	266	202	21—30	6.48	5.75
31—35	248	224	31—40	6.34	6.36
36—40	260	236	41—50	6.57	6.43
41—45	302	236	51—60	7.85	7.21
46—50	286	239			
51—55	346	299			
56—60	310	220			

第25表 腦及腦膜結核症例ニ於ケル心臟重量

絶 對 重 量		輕キモノ	重キモノ
		小 兒	5
比 較 重 量	成 人	20	7
	計	25	14
比 較 重 量	小 兒	5	5
	成 人	11	14
	計	16	19

一般ニ小心臟ノ傾向ヲ有スル事ヲ云ヘリ。而シテ此ノ結核性疾患ニ於ケル小心臟ノ意義ニツキテハ諸學者各論ズル所アリ。或者ハ體質ノ異常トナシ、或者ハ發育ノ停止トナシ、又或者ハ全身ノ衰弱ニ際シテ著シク影響セラル、事ヲ主張セリ。カクノ如ク種々議論ハ分ルルモ、衰弱ニヨル減量ノ存スル事ハ否定スベカラザル事實ノ如ク、余ノ結果ヨリ考フル時ハ全身衰弱ト共ニ心臟ノ重量ノ減ジタル事ガ主要ナル原因ヲナセルモノニアラザルカヲ思考セシム。

其4 脾 臟

邦人脾臟ノ重量ニツキテ唐澤<sup>(27)</sup>、古川<sup>(72)</sup>、

第26表 脾臓重量

唐 澤		古 川				天 野			
年 齢	♂♀	年 齢	♂		♀		年 齢	♂	♀
	絶重		絶重	比重	絶重	比重		絶重	比重
7 月	32.0	7 月			24.2	4.28	0-1年	10	0.36
1-1.5年	30.0	1½年	25.4	3.91			1-2	26	0.40
1.5-1.9年	35.5	2	31.6	3.71			2-5	35	0.31
2	29.5	3	37.3	4.20			5-10	77	0.37
3	40.6	4	46.3	3.59			10-15	87	0.37
4	48.1	5	47.2	3.52			15-20	111	0.32
5	38.3	6	51.6	3.87			20-25	149	0.40
6	43.0	7	44.8	3.42			25-30	119	0.32
7	65.0	8	48.4	3.46			30-40	116	0.28
8	65.0	9	46.8	2.87			40-50	105	0.25
9	40.0	10	44.4	2.47			50-60	98	0.24
10	63.1	11	58.8	3.22					
11	117.0	12	80.9	3.98					
12	66.3	13	87.7	4.23					
13	80.3	14	121	5.18					
14	66.1	15	133	2.34	95.5	2.72			
		16	131	2.64	91.9	3.18			
		17	131	4.73	101	3.79			
		18	137	4.12	119	3.25			
		19	134	3.90	113	3.45			
		20	114	3.15	104	3.10			
		21	134	4.07	91	3.07			
		22	142	3.45	137	3.41			
		23	185	4.15	105	3.09			
		24	142	3.76	134	4.09			
		25	130	3.37	124	3.40			
		26-30	170	4.03	130	3.46			
		31-35	179	3.90	143	3.14			
		36-40	190	4.91	133	3.65			
		41-45	180	4.00	115	2.82			
		46-50	144	3.76	102	2.57			
		51-55	103	2.61	105	3.26			
		56-60	113	3.25	80	2.25			

天野<sup>(1)</sup>等ノ研究アリ。唐澤ハ小兒ノ絶對重量ヲ、古川、天野ハ共ニ小兒成人ヲ通ジテ絶對重量、比較重量ヲ量レリ(第26表)。依テ余ノ症例ヲ比較スベキ標準量ヲ作ルニ小兒ノ絶對重量ハ上記三氏、成人ノ絶對重量及ビ小兒成人ノ比較重量ハ古川、天野ニヨレリ。表記スレバ第27表ノ如シ。

余ノ症例中脾重量ノ量ヲレザリシモノ2例(5, 39)、體重ノ計量ナキ爲比較重量ヲ計算シ得ザルモノ2例(2, 17)アリ。検査ニ用ヒタルモノノ絶對重量ニテハ小兒11例、成人27例、比較重量ニテハ小兒10例、成人26例ナリ。

#### 絶對及比較重量

余ノ得シ所ヲ上記諸氏ノ數値ヲ合セテ求めタル標準

量ニ比較シテ、標準量ニアルモノ15例、輕キモノ9例、重キモノ12例ニシテ、第28表ニ示セル如シ。即チ輕キモノト重キモノトヲ比較スルニ絶對重量ニテハ兩者略等シク、比較重量ニテハ重キモノノ僅ニ多シト云ヒテ可ナルベシ。

#### 其5 腎 臓

腎臓ト體質トノ關係ニツキテモ亦種々論議セラル。胸腺淋巴體質所有者ノ腎臓大ナル事ヲ言ヘルモノアリ。日本人腎臓ノ重量ニツキテ研究セル者ニ唐澤<sup>(27)</sup>、橋本<sup>(72)</sup>等アリ。唐澤ハ小兒ニツキテ絶對重量ヲ量リ、橋本ハ小兒成人ヲ通ジテ絶對重量及ビ比較重量ヲ量レリ(第29表)。依テ余ノ症例中絶對重量ヲ小兒ニテハ兩氏、成人ニテハ橋本ニ、又比較重量ヲ小兒成人共ニ橋

本ニ比較セリ。是等ノ氏ヨリ定メタル標準量ヲ 表記スレバ第30表ノ如シ。

第 27 表 脾 臟

年 齡	標 準 量			
	絶 對 重 量		比 較 重 量	
	♂	♀	♂	♀
7 月		24.2—32.0		4.28
1—2.9年	25.4—35.5		3.1—4.20	
3—3.9				
4—4.9	35—48.1			
5—5.9				
6—6.9	43.0—77			
7—7.9			2.47—3.87	
8—8.9	48.4—77			
9—9.9				
10—10.9			3.22—5.18	
11—11.9				
12—12.9				
13—13.9	80.3—87.7			
14—14.9	66.1—121			
15—20	111—137	91.9—119	2.34—4.73	2.72—3.79
21—30	119—185	97—137	3.2—4.15	3.07—4.09
31—40	116—190	116—143	2.8—4.91	2.8—3.65
41—50	105—180	102—115	2.5—4.0	2.5—2.82
51—60	98—113	80—105	2.4—3.25	2.25—3.26

第28表 腦及腦膜結核症例ニ於ケル脾臟重量

		輕キモノ	標準量ノモノ	重キモノ
絶對重量	小 兒	4	3	4
	成 人	7	14	6
	計	11	17	10
比較重量	小 兒	5	0	5
	成 人	4	15	7
	計	9	15	12

余ノ症例中腎癆アリテ，明ニ其重量變化セル爲計算ヨリ除外セルモノ3例(11, 25, 37)ニシテ，殘ル25例中腎重量ノ兩側共量ラレザリシモノ2例(5, 39)，體重ノ計量ナキ爲比較重量ノ計算出來ザルモノ2例(2, 17)アリ。即チ検査ニ用ヒタルモノ絶對重量ニテハ小兒10例，成人25例，比較重量ニテハ小兒9例，成人24例ナリ。

絶對及比較重量

余ノ得シモノヲ標準量ニ比較シ第31表ヲ得タリ。即チ輕キモノト重キモノトヲ比スルニ絶對

重量ニ於テハ輕キモノ多ク，比較重量ニ於テハ輕重相半バセリ。

抑全身衰弱ニ際シテ體重減少スルト同時ニ各臟器ノ重量モ減ズルハ論ヲ待タズ。然レドモ唯各臟器ニヨリ減少ノ程度ニ大小アリ。即チ腦重量ハ其ノ減少僅ナリト言ハレ，肝臟ハ最モ甚シキ臟器ト言ハル。是等以外ノ臟器ニアリテノ減少ハ肝臟ノ如ク甚シカラズトナシテ可ナルベク，體重ノ減少スルト同ジ割合ニハ減ゼザルモノト考ヘ得ベシ。是ニ由テ之ヲ觀ルニ余ノ症例ニ於ケル腎臟ハ全身ノ衰弱スル以前ニ於テ輕キモノ多カリシニアラザルカラ思考セシム。

其6 大動脈

我教室ニ於テ村田<sup>(42)</sup>ハ大動脈幅徑ニツキ極メテ精細ナル計測の研究ヲナセリ。余ノ症例ニ於ケル大動脈起始部幅徑ヲ村田ノ數値ニ比較セリ。而シテ起始部ノ數値ノミニテハ大動脈全體ノ幅徑ノ大小ヲ正確ニハ言ヒ得ザランモ，尙其ノ一端ハ察知シ得ベシ。大動脈起始部ハ剖檢時大動脈瓣ノ直上數牝ノ部位ニツキ測定セラレタルモノナリ。村田ノ數値ハ第32表ノ如シ。

第 29 表 腎 臟

唐 澤			橋				本				
年 齡	♂ ♀		年 齡	♂				♀			
	絕對重量			左		右		左		右	
	左	右	7 月	絕重	比重	絕重	比重	絕重	比重	絕重	比重
7 月	39.5	26.3	7 月	33.4	5.56	31.3	5.19	25.7	4.69	25.2	3.58
1-1.5年	35.5	33.7	1年3月	33.4	5.56	31.3	5.19				
2	35.6	31.9	2 年	37.5	4.92	35.5	4.80				
3	44.0	43.0	3	45.3	5.02	42.4	4.74				
4	46.5	46.3	4	50.0	4.15	46.3	3.77				
5	49.2	46.2	5	50.6	3.87	51.8	4.27				
6	54.6	50.4	6	55.8	5.55	50.8	5.12				
7	66.5	70.7	7	59.0	5.08	54.6	4.26				
8	58.3	61.6	8	60.9	4.32	54.7	4.24				
9	63.0	61.5	9	66.2	7.26	47.5	5.32				
10	75.0	69.3	10	88.4	3.59	63.5	3.21				
11	85.0	92.0	11	88.8	5.20	92.2	4.94				
12	101.0	97.0	12	106	5.54	81.3	4.73				
13	94.0	93.0	13	115	4.65	119	4.86				
14	96.0	98.0	14	98	4.37	91.9	4.10				
			15	123	4.55	150	8.46	127	5.04	111	4.35
			16	122	3.42	112	3.28	107	3.58	94.3	3.12
			17	127	4.21	122	4.12	138	3.69	124	3.89
			18	168	3.78	134	3.86	164	4.66	113	3.34
			19	137	3.74	119	3.21	126	3.70	119	3.52
			20	153	3.69	120	3.47	129	3.70	125	3.66
			21	134	3.34	126	3.18	121	3.52	129	3.87
			22	161	3.50	157	3.95	124	3.43	123	3.34
			23	149	3.63	135	3.51	129	4.28	116	3.65
			24	147	3.55	135	4.48	143	3.73	140	3.46
			25	151	3.41	140	3.24	145	3.69	131	3.18
			26-30	151	4.18	146	3.56	130	3.61	125	3.50
			31-35	157	3.65	145	3.34	135	3.87	132	3.65
			36-40	145	3.04	135	3.02	134	3.60	127	3.29
			41-45	156	3.67	145	3.79	143	3.82	135	3.62
			46-50	151	3.66	145	3.56	140	3.94	137	3.88
			51-55	141	3.60	135	3.37	134	4.03	140	4.17
			56-60	122	3.46	133	3.28	129	3.62	126	2.49
			60→	130	3.31	126	3.33	120	3.28	98.4	2.91

第 30 表 腎 臟

年 齡	標準 量							
	絕 對 重 量				比 較 重 量			
	♂		♀		♂		♀	
	左	右	左	右	左	右	左	右
7 月							4.69	3.58
1-1.5年	33.4-35.5	31.3-33.7	25.7-39.5	25.2-26.3				
1.5-2.9	35.6-37.5	31.9-35.5						
3-3.9					3.87-5.56	3.77-5.19		
4-4.9	46.5-50.0	46.3						
5-5.9	49.2-50.6	46.2-51.8						
6-6.9	54.6-55.8	50.4-50.8						
7-7.9								
8-8.9	58.3-60.9	54.7-61.6			3.59-5.55	3.21-5.32		
9-9.9								
10-10.9								
11-11.9								
12-12.9								
13-13.9	94.0-115	93.0-119			4.37-5.20	4.1-4.94		
14-14.9	96.0-98	91.9-98.0						
15-20	122-168	112-150	107-164	94.3-125	3.42-4.55	3.21-8.46	3.58-5.04	3.12-4.35
21-30	134-161	126-157	121-145	116-140	3.34-4.18	3.18-4.48	3.43-4.28	3.18-3.87
31-40	145-157	135-145	134-135	127-132	3.04-3.65	3.02-3.34	3.6-3.87	3.29-3.65
41-50	151-156	145	140-143	135-137	3.66-3.67	3.56-3.79	3.82-3.94	3.62-3.68
51-60	122-141	133-135	129-134	126-140	3.46-3.60	3.28-3.37	3.62-4.03	2.49-4.17

第31表 腦及腦膜結核症例  
ニ於ケル腎臟重量

		輕キモノ	標準量 ノモノ	重キモノ
絶對重量	小兒	9	5	6
	成人	20	19	11
	計	29	24	17
比較重量	小兒	5	11	2
	成人	15	14	19
	計	20	25	21

第32表 村田ニヨル大動脈起始部幅徑

	男	女
0-4.9	29.2	23.0
5-9.9	40.0	
10-14.9	45.0	
15-19.9	51.7	48.6
20-24.9	55.4	51.0
25-29.9	56.5	53.3
30-34.9	56.3	55.0
35-39.9	58.8	55.8
60-64.9	74.4	63.0

余ノ症例中測定セラレザリシモノ小兒2例(4,6), 成人4例(19,27,29,37)ナレバ殘ル小兒10例, 成人24例ニツキテ檢セリ。然シ37ハ數値ノ記載ナキモ菲薄ニシテ狹シト記錄シアリ。小兒成人ヲ合スル時ハ第33表ニ示セル如ク比較的小ナルモノ16例, 比較的大ナルモノ14例ナリ。

第33表 腦及腦膜結核症例ノ  
大動脈起始部幅徑

	比較的小ナルモノ	村田ノ數ニ 等シキモノ	比較的大ナルモノ
小兒	2	5	3
成人	14	0	11
計	16	5	14

村田<sup>(45)</sup>ニヨリテ紹介セラレタル如ク, 結核性疾患ニテ死シタル症例ニ比較の屢々先天的狹小大動脈ヲ見ルトナス學者ト然ラズトナス學者ト存セリ。而シテ又村田ノ研究ニヨレバ大動脈小ナルモノノ内69%ハ増殖型, 31%ハ滲出型, 大

動脈大ナルモノノ内48%ハ増殖型, 52%ハ滲出型ニシテ, 大動脈小ナルモノニ於テハ増殖型ノ著シク大ナル頻度ヲ示スニ反シ, 大動脈大ナルモノニアリテハ兩型ノ頻度ニ大差ヲ認メズトナシ, 大動脈容積ニ於テ著明ニ小ナル場合及ビ大動脈ノ一般ニ小ナル傾向ヲ示セル場合, 増殖型ノ比較の多數出現スル事ハ略確實ト看做シ得ベシト結論セリ。而シテ氏ハ臟器結核(腦, 骨, 關節及ビ泌尿器)ヲ増殖型ノ中ニ算入セリ。

余ノ場合小兒ニ於テハ大動脈起始部幅徑ノ村田ノ數ニ等シキモノ最モ多ク, 比較的小ナルモノト比較的大ナルモノ兩者略相半バセリ。成人ニ於テハ比較的小ナルモノヤ、多ク, 合計ニ於テハ比較的小ナルモノ微ニ多キガ如シ。

其7 蟲様突起ノ長サ

我教室ニ於テ堀地<sup>(49)</sup>ハ體質判斷ノ一要素トシテ淋巴組織ニ富ミ, 而モ諸種ノ刺激ニヨリ容易ニ其ノ長サヲ變ヘザル蟲様突起ニ着目シ, 屍體200例並ニ結核症屍100例ニツキテ是ヲ計測シ, 定型的胸腺淋巴體質並ニ淋巴體質所有者ノ其ハ9-13cm, 一般屍體ノ其ハ平均値7.3cmアリ, 肺病竈ノ増殖性ナルモノノ蟲様突起ノ長サハ滲出性ナルモノノ其ヨリ長ク, 蟲様突起ノ計測ハ淋巴體質檢索ノ目標トシテ意義アルベキヲ是認セリ。同ジク我教室ニ於ケル高木<sup>(65)</sup>モ是ニ着目シ, 結核症以外ノ死亡例98例ノ蟲様突起ノ長サヲ年齢別ニ計測シ, 是ニ腸結核症例ノ其ヲ比較シ, 氏ノ材料トセル結核症ニ瘳レシモノノ平均値ハ幼年者ノミ高クシテ, 成年期以後ノモノハ悉ク低ク, 幼年期ニ於テ殊ニ蟲様突起ノ長キモノ, 他ノ病症ニ比シ多キニアラザルヤト思考スト言ヘリ。是ニツキテハ又高桑<sup>(66)</sup>モ當教室ニ於テ舌結核症例ニツキテ同様ノ結果ヲ出シ, 結核屍ニ於ケル平均値ガ幼年者ノミニ於テ高キ事ヲ認メタリ。

余モ腦及腦膜結核症例ニ於ケル體質の關係ノ判斷ノ一助トシテ蟲様突起ノ長サヲ高木ノ, 結核症例以外ノ屍ヨリ得タル平均値ニ比較セリ。記錄ニ記載ナキモノ1, 14, 15, 16, 19, 24, 30, 31, 37ノ9例ニシテ, 殘ル小兒11例, 成人20例ニツキテ檢セル結果ハ第34表ノ如シ。



第 34 表 蟲様突起ノ長さ

年 齢		15以下	16-30	31-40	41-61	百 分 率	
結核症以外ノ死亡例(高木ニ據ル)	平均ノ長さ	6.3cm	8.2cm	8.0cm	8.0cm	小 兒	成 人
腦及腦膜結核症例	平均ヨリ長キモノ	7 例	6 例	1 例	0 例	63.6%	35.0%
	平均ト同ジモノ	0	0	3	0	0%	15.0%
	平均ヨリ短キモノ	4	8	1	1	36.4%	50.0%

小兒ニ於テハ長キモノ甚ダ多ク、成人ニ於テハ短キモノノ方微ニ多キ結果トナリタリ。

是ハ高木ノ報告セル所ト等シキガ如ク、腦及腦膜結核症例ニ於テモ氏ノ言ヘル如ク、幼年期ニ於テ平均ヨリ長キモノ多キニアラザルヤト思考セラル。

又其ノ長キモノニ於テハ平均値ヨリ長キ長サ、及ビ短キモノニ於テハ平均値ヨリ短キ長サノ夫々ノ平均値ヲ求メタルニ、小兒ニアリテハ長キモノハ2.1cm、短キモノハ1.1cmニシテ長キモノノ方遙ニ長ク、成人ニ於テハ長キモノハ2.9cm、短キモノハ3.2cmニシテ短キモノノ方微ニ大ナリ。

其 8 甲 狀 腺

Miloslavich<sup>(41)</sup>ハ顯著ナル胸腺淋巴體質ヲ有スルモノニ於テハ甲狀腺甚ダ小ニシテ輕シトナセルモ亦時ニ肥大ノアル事ヲモ認メタリ。而シテ又福士<sup>(44)</sup>ハ全身結核、腦膜炎ニ際シテ甲狀腺ノ重量ノ減少スル事ヲ記載セリ。依テ余モ亦腦及腦膜結核症ニ際スル甲狀腺ノ重量ノ關係ヲ檢セントス。

日本人甲狀腺ノ重サニツキテ文獻ヲ見ルニ福士、堀澤<sup>(20)</sup>、及ビ我教室ニ於ケル石本<sup>(25)</sup>等アリ。然ルニ福士ハ或特定ノ年齢間ノミヲ計測シ、石本ハ27歳ヨリ87歳ニ至ル全例ノ平均ヲ算出セル爲余ノ症例ヲ比較スルニ適當ナラズ。堀澤ハ比較ノ多クノ症例ヲ1歳ヨリ年齢順ニ計測シ、余ノ症例ニ於ケル甲狀腺ノ輕重ヲ判斷スルニ當リ標準トスルニ都合ヨシ。堀澤ノ數値ハ第35表ノ如シ。

余ノ症例ニ於テ甲狀腺ノ重量ノ記載アルモノ小兒7例、成人24例、内2例(2,5)ハ體重ノ記載ナキ爲比較

第35表 堀澤ニヨル甲狀腺重量

年 齢	絶對重量		比較重量	
	♂	♀	♂	♀
2-3年	1.85	1.84	0.26	0.25
4-7	3.85	3.15	0.27	0.19
8-16	8.40	5.89	0.32	0.33
17-25	14.45	13.90	0.37	0.49
26-42	17.47	15.30	0.41	0.39
43-60	17.50	17.00	0.40	0.45

重量ヲ檢シ得ザリキ。

絶對及比較重量

余ノ得シ數値ヲ堀澤氏ノモノニ比較シ表記スレバ第36表ノ如シ。

第36表 腦及腦膜結核症例ニ於ケル甲狀腺重量

		輕キモノ	標準ニ等シキモノ	重キモノ
		絶對重量	小 兒	6
成 人	14		0	10
計	20		0	11
比較重量	小 兒	3	0	3
	成 人	11	2	10
	計	14	2	13

是ニ由テ觀ルニ絶對重量ニ於テハ明ニ甲狀腺ノ重量ハ輕キモノ多ク、福士ノ言ヘル如キ結果トナレリ。而シテ比較重量ニ於テハ小兒成人共ニ、又合計ニ於テ輕重略相半バシテ、腎臟重量ニ於ケルト同ジ結果ヲ生ジタリ。サレバ甲狀腺モ亦疾病ニヨリテ全身衰弱スル以前體質的ニ重量ノ輕キモノ多カリシニアラザルカラ思考セシム。而シテ Miloslavichノ言ヘルガ如キ特別ニ甲狀腺ノ肥大セリト看做サルベキ症例ハ存在セ

ザリキ。

其9 副 腎

體質ト副腎トノ關係モ種々論議セラレタル所ニシテ Miloslavich<sup>(41)</sup>ハ胸腺淋巴體質者ハ副腎小ナル事ヲ言ヘリ。

邦人副腎ノ重量ニツキテ研究セル者ニ羽太<sup>(15)</sup>、星<sup>(21)</sup>、及ビ我教室ニ於ケル石本<sup>(20)</sup>、中谷<sup>(48)</sup>等アリ。星ハ成熟胎兒ヨリ26歳ニ至ルモノ、中谷ハ16歳以上ノ成人ノ肺結核症例ト非結核症例トノ副腎ノ重量ヲ比較セリ。依テ余ノ症例ニ於ケル副腎ノ重量ヲ小兒ニ於テハ星ニ、成人ニ於テハ中谷ニ比較セリ。而シテ比較重量ニツキテ研究セル文獻ヲ見出シ得ザル爲比較重量ハ檢セザリキ。星、中谷ノ數値ハ第37表及ビ第38表ノ如シ。

第37表 星ニヨル副腎重量

年 齡	男
1-2年	3.39
3-4	3.93
5-6	4.85
7-8	5.71
9-10	5.78
11-12	7.00
13-14	7.91

第38表 中谷ニヨル副腎重量

	男		女	
	左	右	左	右
16-20歳	4.83	5.53	5.40	4.67
21-30	6.33	5.25	6.25	6.5
31-50	6.08	5.29	4.81	5.63
51→	5.38	4.98		

余ノ症例中左右共ニ計量セラレザリシモノ9例(♂6, 7, 16, 18, 27, 30, 37, 39, ♀1), 右側ノミ計量セラレザリシモノ5例(♂8, 11, 21, 33, 38)アリ。依テ小兒ニ於テハ左9個, 右7個, 成人ニ於テハ左22個, 右19個ニツキテ檢セリ。

1. 小 兒

星ノ數値ニ比較セルニ全例ガ輕キモノナリ。

2. 成 人

中谷ノ數値ニ比較セルニ左側ニ於テハ輕キモノ10例, 重キモノ12例, 右側ニ於テハ輕キモノ10例, 重キモノ9例, 即チ左右合セテ41個中輕キモノ20個, 重キ

モノ21個ナリ。

小兒成人ヲ合計スル時ハ輕キモノ36個, 重キモノ21個ナリ。表記スレバ第39表ノ如シ。

第39表 腦及腦膜結核症例ニ於ケル副腎重量

		輕キモノ	重キモノ
小兒	左	9	0
	右	7	0
	計	16	0
成人	左	10	12
	右	10	9
	計	20	21
合 計		36	21

即チ小兒ニ於テハ全例輕ク, 成人ニ於テハ輕重略同數ニシテ小兒成人合スル時ハ輕キモノ可ナリニ多シ。

其10 辜 丸

稗田-森<sup>(18)</sup>ニヨレバ新鮮材料ニテ左右各15個ノ平均左8.45g, 右8.39g, 兩側平均8.42gアリタリト。然ルニ大家<sup>(51)</sup>ハ成熟期以後ニ於ケル辜丸重量ノ變化ハ甚シキモノニハアラズト言ヘリ。依テ8.42gヲ標準量ト看做シ是ニ余ノ成人症例ヲ比較セリ。

余ノ症例男子19例中辜丸重量ノ兩側共ニ計量セラレザリシモノ4例, 右側1例アリ。故ニ檢査ニ用ヒタルモノ左15個, 右14個, 計29個ナリ。

標準量ヨリ輕キモノ15個, 重キモノ14個ニシテ輕重略相半バセリ。而シテ最モ輕キモノ4.5g(21左), 最モ重キモノ11g(13左及ビ33左)ニシテ, 全例ノ平均ハ7.8gナリ。前記セル稗田-森ノ得タル平均8.42gニ比スレバ約0.6g尠シ。而シテ我教室ニ於テ石本<sup>(24)</sup>ハ癌腫症ニ於ケル辜丸重量ヲ測定シ, 其平均7.4gアリタリ, 余ノ場合此ヨリ0.4g多シ。

其11 總 括

以上各臟器ニツキテ檢シタリ。各臟器ノ重量, 大小等ガ腦及腦膜結核症發生上, 體質ノ關係ヲ示セルモノアルベキモ, 結核症罹患ニ基キ二次的變化ノ加ハリ其ノ關係ノ亂サル、場合多

ク、検査結果トシテ表レタル成績が果シテ體質の關係ヲ示セルモノナリヤ、將又疾病ニヨル二次的變化ナリヤノ判斷ハ必シモ容易ナラザルアリ。然レドモ亦余ノ症例ニ於ケル腦重量ノ増大、小兒蟲様突起ノ長キモノ多キ點、腎臟、甲状腺、小兒副腎等ノ重量ノ少キハ注目スベキモノナリト考ヘラル。

第4項 變性體質

從來結核症ト變性體質トニツキテハ種々論議セラレ、變性體質者ハ結核症ニ對スル素因大ナル事ヲ認ムル者多シ。

中村<sup>(47)</sup>ハ結核症ニテ瘡レシモノニハ病理解剖上骨骼ノ變異アルモノ多ク、小顛門附近ノ骨陷凹、前額骨ノ縫合存在、第10肋骨先端遊離等ノ如キ種々擧ゲラレ、カ、ル變性徵候ハ又内臟

ニ於テモ見ラル、モノニシテ、肺ノ葉形成異常、蹄鐵腎等種々掲ゲラル。其他外形上ニモ胸廓扁平、毛髮發生ノ異性的ナルコト、多乳房、耳殼變形、又小兒型ニシテ生殖器ノ發育不全等擧ゲラル。上述第10肋骨先端遊離ハ多クノ論者ヨリ認メラル、所ニシテ結核症ニ對スル素因上重要視セララル。然レドモコハ所謂無力體質トイハル、モノノ徵ニシテ、無力體質者ハ結核殊ニ肺結核症ニ素因多キモノナレバ容易ニ説明セララル、モノナリト言ヘリ。

余ノ症例ニ現レタル種々ノ成形異常ニツキテ其ノ起ル頻度ヲ檢セリ。而シテ中谷<sup>(48)</sup>ノ當教室ニ於ケル肺結核症200例及ビ非結核症69例ニツキテノ精細ナル比較研究ヲナセル結果ト對照セリ(第40表)。

第40表 成形異常

	第十遊離肋	劍狀突起異常	毛髮異常(成人)	小腎殘存著(成人)	副脾(腺)	假性陰囊	肺態分葉及形
例 數	13	3	4	8	4	3	5
頻 度 %	32.5%	7.5%	14.3%	14.3%	10.0%	7.5%	12.5%
肺結核症例(中谷ニヨル)	39%	11%	24%	15%	10%	5%	8%
非結核症例(中谷ニヨル)	10%	6%	6%	6%	9%	5.8%	12%

1. 第X(IX)肋骨ニツキテ

第IX又ハ第X肋骨以下先端遊離セルモノハ余ノ症例ニ於テ13例ニシテ全40例ニ對シテ32%ナリ。而ルニ中谷ノ肺結核症例ニ於テハ39%ニシテ、是ヨリ多少數キガ如ク、非結核症例ニ於テハ10%ニシテ是ノ約3倍ナリ。

2. 劍狀突起及ビ肋骨ノ異常ニツキテ

劍狀突起ノ尖端ニ異常ノ孔アルモノ及ビ肋軟骨ガ異常ニ融合セルモノヲ檢シタルニ3例、7%アリタリ。肺結核症例ニ於テハ11%、非結核症例ニ於テハ6%ナリ。即チ余ノ症例ニ於ケル頻度ハ此ノ場合ハ肺結核症例ニ遠ク、非結核症例ニ殆ド等シキ結果ヲ得タリ。

3. 毛髮異常ニツキテ

毛髮發生ノ異常トシテ前記中村ノ云ヘル異性的ナル

事、及ビ此ノ外陰毛、腋毛ノ發育貧シキモノ、體全部或ハ一部ニ毳毛ノ多ク認メラル、モノ等モ等シク毛髮異常ニシテ體質的意義アルモノト考ヘラレ是等ヲ計算セリ。而シテ小兒ニ於テハ陰毛、腋毛等ナキ爲此處ニテハ成人ノミヲ檢セリ。

表ニ示セル如ク余ノ症例ニ於テハ4例ニシテ成人28例ニ對シ14%ナリ。是ヲ肺結核症及ビ非結核症ニ比スルニ肺結核症例ニ於テハ24%、非結核症例ニ於テハ6%ニシテ、前者ヨリハ10%尠ク、後者ヨリハ8%多シ。即チ略兩者ノ中間ニ位セリ。

4. 小腎ノ殘存著明ナルモノ

小腎ハ胎生時ニハ著明ナルモ成長スルニ從ヒテ著明ノ度ヲ減ジ、成人ニ於テ是ノ分明ナルハ異常トセララル。然レドモ乳兒ニ於テ極メテ著明ナルモノハ異常ナ

ル事勿論ナリ。余ノ症例ニ於ケル小兒ニハ、カ、ル極メテ著明ナルモノハ1例モナカリキ。而シテ成人ニ於テ是ノ著明ナルモノ8個ニシテ、28例ノ56個ノ腎臟ニ對シテ14%ナリ。

是ヲ肺結核症例及ビ非結核症例ニ比スルニ前者ニアリテハ15%、後者ニアリテハ6%ニシテ、肺結核症例ト略等シク、非結核症例ノ約2倍強ニ當ルベシ。

#### 5. 副脾, 副腎ニツキテ

余ノ症例ニ於テハ副脾アルモノ4例、10%アリタリ。而シテ中谷ニ於ケルガ如ク副腎アル症例ハナシ。此ノ場合ニ於テハ肺結核症例及ビ非結核症例ト略等シク相違ハ認メラレズ。

#### 6. 假性腱索

心臟内ニアル假性腱索ヲ檢セルモノニシテ3例、7%ヲ算セリ。中谷ノ肺結核症例及ビ非結核症例ニツキテノ表ヨリ余ガ計算セルニ夫々10例及ビ4例アリタリ。共ニ5%ニシテ多少余ノ症例ノ方多キガ如シ。

#### 7. 肺分葉及ビ形態異常ニツキテ

余ノ症例中此ノ異常アルモノ5例、12%ニシテ、非結核症例ニ等シ、然レドモ中谷ノ是ニツキテ云ヘルガ如ク、其病變ノ性質上肺、肋膜ニ高度ノ結締織性癒着ノ存スルモノ多ク、從ツテ非結核症例ニ比シ、肺ノ分葉ノ狀及ビ僅少ナル形態ノ異常ヲ剖檢時觀察認識スル事、時ニハ至難ナリ。故ニ余ノ症例ト非結核症例トヲ

比較スル事ハ當ヲ得ザルベシ。然レドモ是ヲ肺結核症例ニ比スル時少シク多キ結果トナリタルハ、余ノ症例ノ肺、肋膜ニ於ケル病變ノ度ガ肺結核症ニ於ケル其ヨリ少キ事ガ原因ノ一タリ得トモ考ヘラルベシ。

### 總 括

以上ニヨリテ觀ルニ非結核症例ニ比シ、第IX乃至第X肋骨端遊離、毛髮異常、小腎殘存著明ノ三者ニ於テ著シク多ク、劍狀突起異常、副脾(障)及ビ假性腱索ニ於テ極メテ僅ニ多ケレドモ略等シト言ヒテ可ナルベク、肺分葉及ビ形態異常ニ於テ相等シ。之ヲ要スルニ腦及腦膜結核症例ハ非結核症例ニ比シテハ變性體質ノモノ多シト言ヒ得ベシ。而シテ是ヲ肺結核症例ニ比スルニ、第IX乃至第X肋骨端遊離、毛髮異常ニ於テ可ナリ尠ク、劍狀突起及ビ肋骨異常ニ於テ多少尠シ。而シテ小腎殘存著明、副脾ニ於テハ略等シク、假性腱索、肺分葉及ビ形態異常ニ於テハ少シク多シ。例數少ク、多少ノ相違ヲ以テ論議シ得ザルハ勿論ナレドモ、第X肋骨遊離、毛髮異常ニ於テハ可ナリノ相違ヲ示ス事ハ甚ガ興味アル事實ノ如シ。即チ腦及腦膜結核症例ハ肺結核症例ヨリ變性體質テフ點ニ於テ其ノ要素少キニアラザルカラ思ハシム。

## 第4章 結 論

本編ハ金澤醫科大學病理學教室ニ於テ剖檢セラレ、腦及腦膜結核症ヲ有スル41例ニツキ病理解剖學的並ニ組織學的檢索ニヨル他臟器ノ狀並ニ體質的關係ヲ檢索センモノノ記載ニシテ結論スルコト次ノ如シ。

1. 腦及腦膜結核症ノ發生スル頻度ハ陳舊性ナラザル結核症例ニ對シ小兒44.4%、成人6.9%ナリ。

2. 年齢的ニハ1—5歳ノ間ガ最モ多ク罹患シ、以後ハ25歳ニ至ル迄急激ニ減ジ、26—35歳ノ間ニ微ニ増セル感アリ。以後ハ高年ニナル程減少ス。

3. 性的素因ヲ言爲スル丈ノ差無キ如シ。

4. 腦及腦膜結核症例中全身粟粒結核症ヲ伴

ヘルモノ小兒ニ於テハ83.4%、成人ニ於テハ67.9%、合計ニ於テハ72.5%ナリ。

5. 全身粟粒結核症例中腦及腦膜結核症ヲ伴ヘルモノ小兒ニ於テハ45.5%、成人ニ於テハ17.2%、兩者合計ニ於テハ22.7%ナリ。

6. 腦及腦膜結核症例ニ於ケル肺臟ニハ増殖型ノ結核症ヲ有スルモノ多ク、滲出型尠シ。又粟粒結核ヲ有スルモノ多ク、空洞ヲ有スルモノ尠シ。

7. 腦及腦膜結核症例ハ乾酪化セル淋巴腺ヲ有スルモノ多シ。而シテ氣管及氣管支淋巴腺ノ變化ヲ伴ヘルモノ多ク、腸間膜淋巴腺ハ他ノ結核症トノ間ニ著シキ差異ナシ。

8. 腦及腦膜結核症ト生殖器官結核症トハ伴ハ

ル、コト多シ。

9. 腦及腦膜結核症ニ伴ハル、肋膜炎及ピ腹膜炎ハ増殖性炎ヲ主トスルモノ著シク多シ。

10. 成人ニ於テハ腦及腦膜結核症例中泌尿器結核症ノ伴ハル、モノ可ナリニ多シ。

11. 腦膜結核症例ノ腦重量ハ小兒ニ於テハ極メテ重ク、成人ニ於テモ重キガ如シ。腦結核症及ピ腦膜腦結核症例ノ其ハ平均シテ腦膜結核症例ノ其ト異ラズ。

12. 腦及腦膜結核症例ノ甲状腺、腎臟、副腎ノ重量少ク、小兒蟲様突起ノ長キハ體質的關係ヲ示セルモノノ如ク、肝臟、心臟、脾臟、大動脈、睾丸等ハ余ノ場合體質ヲ云々スルニハ關係少キモノノ如シ。

13. 腦及腦膜結核症例ハ非結核症例ニ比シ變性體質微多キモ、肺結核症例ニ比シテハ多少其ノ要素少キ如シ。

## 文 獻

- 1) 天野, 正常脾ノ大サ (屍體ニ就テ). 日本外科學會雜誌 第30回, 320頁, 昭和4年. —
- 2) 天野一林, 本邦畿内人ノ腦重量ニ就テ. 日本微生物病理學雜誌 第27卷, 1118頁, 昭和8年. —
- 3) Anton, Wahre Hypertrophie des Gehirns mit Befunden an Thymusdrüse und Nebennieren. Wien. klin. Wochenschr. Nr. 50, S. 1321, 1902. —
- 4) Baumgarten, Ueber das Verhältnis der Lymphogranulomatose zur Tuberkulose. München. med. Wochenschr. Jg. 61, S. 1545, 1914. —
- 5) Beitzke, Atmungsorgane. Path. Anat. v. Aschoff 8. Aufl. Bd. 2, S. 230, 1936. —
- 6) Beres and Mertzner, Tuberculous meningitis and its relation to tuberculous foci in the brain. Amer. J. of Path. Vol. 14, p. 59, 1938. —
- 7) Blacklock and Griffin, Tuberculous meningitis in children. J. of Path. and Bact. Vol. 40, p. 489, 1935. —
- 8) Brown, L., Cameron (10)ニ據ル. —
- 9) Brown, Wm., Meningeal tuberculosis. Edinburgh Med. J. Vol. 42, p. 126, 1935. —
- 10) Cameron, Meningeal tuberculosis as a terminal feature in pulmonary tuberculosis. Edinburgh Med. J. Vol. 42, p. 154, 1935. —
- 11) Engel, Meningitis tuberculosa u. Miliartuberkulose. Handb. d. Kinder-tb. v. Engel u. Pirquet, Bd. 1, S. 522, 1930. —
- 12) Derselbe, Die okkulte Tuberkulose im Kindesalter. Tuberkulose-Bibliothek Nr. 12, 1930. —
- 13) 藤田, 剖検例2011人中ノ結核症ノ統計的觀察. 醫學研究 第3卷, 229頁, 昭和4年. —
- 14)

- 福士, 甲状腺ニ就テ. 東京醫事新誌 704頁, 大正13年. —
- 15) 羽太, 副腎ノ大小及重量ニ就テ. 順天堂醫事研究會雜誌 352頁, 大正7年. —
- 16) Hartwich, Statistische Mitteilungen über Miliartuberkulose. Virchows Arch. Bd. 237, S. 196, 1922. —
- 17) 廣瀬一永谷, 小兒腦膜炎ノ診斷及ピ治療ニ關スル知見補遺. 兒科雜誌 988頁, 昭和6年. —
- 18) 稗田一森, 日本人ノ睾丸並ニ副睾丸ノ重量及容積ニ就テ. 醫學研究 第3卷, 79頁, 昭和4年. —
- 19) 堀地, 胃結核症ニ就テ. 十全會雜誌 第37卷, 705頁, 昭和7年. —
- 20) 堀澤, 甲状腺ニ關スル研究殊ニ重量的關係ニ就テ. 日本病理學會會誌 第9卷, 115頁, 大正8年. —
- 21) 星, 剖検材料ノ統計的研究. 東北醫學會雜誌 第11卷, 230頁, 昭和3年. —
- 22) Huebschmann, Ueber primäre Herde, Miliartbk. unt Tuberkuloseimmunität. München. medi. Wochenschr. Jg. 69, S. 1654, 1922. —
- 23) Derselbe, Path. Anat. d. Tbk. Berlin, 1928. —
- 24) 石本, 癌腫症ニ於ケル内分泌腺ノ病理解剖學的及組織學的研究, 其ノ1, 睾丸ノ變化ニ就キテ. 十全會雜誌 第39卷, 1183頁, 昭和9年. —
- 25) 同人, 同, 其ノ3, 甲状腺ノ變化ニ就キテ. 十全會雜誌 第40卷, 4455頁, 昭和10年. —
- 26) 同人, 同, 其ノ4, 副腎ノ變化ニ就キテ. 十全會雜誌 第41卷, 738頁, 昭和11年. —
- 27) 唐澤, 日本小兒ノ脾臟, 肝臟, 腎臟ノ大サノ測定. 兒科雜誌 第73號, 437頁, 明治39年. —
- 28) 加藤, 結核性腦膜炎ニ就テ. 日本傳染病學會雜誌 第4

卷, 864頁, 昭和5年。 — 29) **Kaufmann**, Lehrb. d. spez. path. Anat. Bd. 2, 1922。 — 30) **木村**, 腦重量ニ關スル研究。精神病學集要(吳教授莅職二十五年記念文集) 第1部, 119頁, 大正14年。 — 31) **Kinnear**, Tuberculous meningitis in children. Lancet Vol. 208, p. 19, 1925。 — 32) **岸**, 結核症ニ於ケル肺門部並ニ腸間膜淋巴腺ノ病理解剖學的並ニ組織學的研究, 其2, 各種結核性病竈。十全會雜誌 第42卷, 427頁, 昭和12年。 — 33) **Klare**, Die Meningitis tbk. in ihrer Beziehung zu den Verlaufsformen der Tbk. Zeitschr. f. Tbk. Bd. 52, S. 25, 1929。 — 34) **Kment**, Zur Meningitis tbk. mit besonderer Berücksichtigung ihrer Genese. Tuberkulose-Bibliothek Nr. 14, 1924。 — 35) **Koch**, Entstehungsbedingungen der Meningitis tbk. Zeitschr. f. Kinderheilk. Bd. 5, S. 355, 1913。 — 36) **窪田一村田**, 小兒結核性腦膜炎ノ統計的觀察。乳兒學雜誌 第5卷, 215頁, 昭和4年。 — 37) **黒川**, 東北人ノ腦重量ニ就テ。日本病理學會會誌 第10年, 97頁, 大正9年。 — 38) **Mac Gregor and Green**, Tuberculosis of the central nervous system, with special reference to tbk. meningitis. J. of Path. and Bact. Vol. 45, p. 613, 1937。 — 39) **松田**, 小兒結核性腦膜炎ノ統計的觀察。兒科雜誌 第374號, 970頁, 昭和6年。 — 40) **M'Cracken**, Meningeal tuberculosis. Edinburgh Med. J. Bd. 42, p. 131, 1935。 — 41) **Miloslavich**, Hirnhypertrophie und Konstitution. Ziegler's Beitr. z. path. Anatomie. Bd. 62, S. 378, 1916。 — 42) **村田**, 大動脈ノ計測的研究, 其1, 大動脈ノ生物測定學的研究。十全會雜誌 第35卷, 2469頁, 昭和5年。 — 43) 同人, 同, 其2, 大動脈計測ノ病理學的考查。十全會雜誌 第36卷, 777頁, 昭和6年。 — 44) **長澤**, 吉田(73)ニ據ル。 — 45) **長興**, 黒川ニ對スル附議。日本病理學會會誌 第10年, 101頁, 大正9年。 — 46) 同人, 本邦人ノ腦ノ重量ニ就テ。精神病學集要(吳教授莅職二十五年記念文集) 第1部, 187頁, 大正14年。 — 47) **中村**, 内分泌ト體質及疾病。診斷ト治療 臨時増刊 254頁, 昭和3年。 — 48) **中谷**, 肺結核症ニ關スル病理解剖學的統計的研究。十全會雜誌 第44卷, 1702頁, 昭和14年。 — 49) **西郷一田中**, 空洞ノ研究。十全會雜誌 第43卷, 2864頁, 昭和13年。 — 50) **緒方**, 病理組織學實習ノ手引キ。昭和8年。 — 51) **大家**, Statistische und histologische Hodenstudien. Mitt. über allg. Patho. u. path. Anat. (Sendai), Bd. 4, S.

425, 1928。 — 52) **大氣**, 結核性腦膜炎ノ統計的觀察。兒科雜誌 第43卷, 119頁, 昭和12年。 — 53) **Oppenheim**, Lehrbuch der Nervenkrankheiten. 3. Aufl. 1902。 — 54) **Orosz**, Studien über die Meningitis tbk. Beitr. z. Klin. d. Tbk. Bd. 79, S. 163, 1932。 — 55) **Rich and McCordbeck**, The pathogenesis of tbk. meningitis. Bull. of the Johns Hopk. Hosp. Vol. 52, p. 5, 1933。 — 56) **Rokitansky**, zit. n. Anton (3)。 — 57) **Ruata**, zit. n. Steinmeier (63)。 — 58) **Schmaus u. Herxheimer**, Grundr. d. path. Anat. 20. Aufl. 1932。 — 59) **Schridde**, Der angeborene Status thymolymphaticus. München. med. Wochenschr. Jg. 61, S. 2161, 1914。 — 60) **Simmonds**, Ueber Meningitis tbk. bei Tbk. des männlichen Genitalapparates. München. med. Wochenschr. Jg. 48, S. 743, 1901。 — 61) **Stefko**, Ueber die Bedeutung der Konstitution in der Pathogenese der tbk. basillaren Meningitis. Zeitschr. f. Konstit. Bd. 10, S. 546, 1925。 — 62) Derselbe, Beitrag zur Frage nach der Konstitution der Tuberkulösen. Zeitschr. f. Konstit. Bd. 13, S. 139, 1928。 — 63) **Steinmeier**, Statistische Erhebungen über das Vorkommen von Meningitis tbk. bei anderweitigen Organtbk. Virchows Arch. Bd. 216, S. 452, 1914。 — 64) **田口**, 本邦人ノ腦重量ニ就テ。神經學雜誌 第1卷, 255頁, 明治25年。 — 65) **高木**, 腸結核症ノ病理解剖學的並ニ組織學的研究。十全會雜誌 第40卷, 1221頁, 昭和10年。 — 66) **高桑**, 結核症ニ於ケル舌殊ニ舌濾胞ノ病理解剖學的並ニ組織學的研究。十全會雜誌 第43卷, 2932頁, 昭和13年。 — 67) **上島**, 結核性腦膜炎ノ統計的觀察。兒科診療 第4卷, 62頁, 昭和13年。 — 68) **Wangenheim**, Zur Pathogenese der Meningitis tbk. im Kindesalters. Beitr. z. Klin. d. Tbk. Bd. 70, S. 670, 1928。 — 69) **Weigert**, zit. n. Huebschmann (22)。 — 70) **Westenhöfer**, zit. n. Stefko (61)。 — 71) **山下一藤瀬**, 小兒結核性腦膜炎ノ統計的觀察。九大同門會會報 第51號, 32頁, 昭和10年。 — 72) **保田一金子一奥田一鴨井一大浦一古川一橋本**, 九大病理教室臟器統計。福岡醫科大學雜誌 第11卷, 360頁, 大正7年。 — 73) **吉田**, 本邦東北人腦重量ニ關スル病理組織學的研究。日本醫科大學雜誌 第9卷, 83頁, 昭和13年。 — 74) **吉澤**, 再ビ本邦人ノ腦重量ニ就キテ。解剖學雜誌 第3卷, 797頁, 昭和5年。 —